

第 2 回 館山市議会定例会会議録

(第 2 号)

1 平成3年6月17日(月曜日)午前10時

1 館山市役所議場

1 出席議員 28名

1番 秋山 光章	2番 増田 基彦
3番 島田 保	4番 斉藤 実
5番 宮沢 治海	6番 植木 馨
7番 鈴木 順子	8番 永井 龍平
9番 脇田 安保	10番 庄司二三男
11番 山崎 雅己	12番 岩村 勝弘
13番 榎本 春光	14番 小宮 利夫
15番 山中金治郎	16番 鈴木 勝美
17番 鈴木 忠夫	18番 日下 君敏
19番 川名 正二	20番 生稻 陞
21番 神田 守隆	22番 福原 勤
23番 石井 昌治	24番 石井 輝久
25番 流山源次郎	26番 辻田 実
27番 横溝 功	28番 飯田 義男

1 欠席議員 なし

1 出席説明員

市長 庄司 厚
収入役 渡辺 弘
総務部長 二通 英雄
経済部長 脇田 元始
水道課長 鈴木 信一

教育委員会 会長 福原 修
教 育 長

助 役 小幡 清之
市長公室長 佐藤 輝雄
民生部長 佐藤 澄雄
建設部長 伊東 衛

教育委員会 会長 山田 教和
教 育 員

1 出席事務局職員

事務局長 兵藤 恭一

事務局長補佐 土橋 康彦

書 記 鈴木 哲

書 記 鈴木 修一

書 記 加藤 浩一

1 議事日程（第2号）

平成3年6月17日午前10時開議

日程第1 行政一般通告質問

開 議 午前10時02分

◎議長（福原 勤君） 本日の出席議員数28名、これより第2回市議会定例会第2日目の会議を開きます。

本日の議事はお手元に配付の日程表により行います。

行政一般通告質問

◎議長（福原 勤君） 日程第1、これより通告による行政一般質問を行います。

締め切り日の6月12日正午までに提出のありました議員、要旨及びその順序はお手元に配付のとおりであります。

これより順次質問を行います。

この際、申し上げます。通告質問者は以上のとおりであり、他に関連質問等の発言もあろうかと思いますが、本日は通告者のみといたします。発言の方法は、最初の発言を20分以内とし、執行当局の答弁は時間外、再質問は答弁を含めて30分以内といたします。

これより順次発言を願います。

25番議員流山源次郎君。御登壇願います。

（25番議員流山源次郎君登壇）

◎25番（流山源次郎君） 4月の選挙におきまして市民の審判を得まして、本年度最初の定例会に通告質問第1バッターといたしまして、トップバッターといたしましてここに質問することができましたことに対して、厚くお礼申し上げる次第でございます。何か話によりますと、議員生活20年もやっているんだから、もういいかげんに通告なんかやめて黙っているという声が相

当多いのでございますが、私は庄司新市長が腹を割って話することはもう幾らでもよいという話に甘えまして、一応これから自分の腹に思っていること、それを4点ここで通告質問をしたいと思っています。よろしく願いいたします。

まず、地域高医療体制についてでございますが、私ども総合病院ということとは市民の非常に長い間の要望でございますし、議員といたしましてもそれぞれの先進地にこの問題頭に入れましての行政視察を行った結果は、市で直接総合病院を経営しているというところは非常に赤字体制で、各市がそこにつき込む毎年の予算というのは非常に大きなものがあるという結果を得て帰ってくるわけでございます。昨年11月に行われました市長選におきましては、市民の要望もやはり総合病院ということは大きかったと思います。候補者としても、総合病院は三者三様に何とかしようということの公約はしておると思いますが、現庄司市長におかれましては総合病院に関連して医師会病院との話し合いをして、それによって、そのニーズによって館山市としても対応していこうというお話のようでもございましたが、私はそれに対しては同感するものでございます。この問題について——まだ市長就任半年でございまして、庄司市長におかれましては今具体的にどうということは無理かもわかりませんが、一応現在までのあり方はどうなっておるかをお聞かせ願いたいと思っています。

それから、第2点といたしまして、海と観光についての市としての見通しを知りたいということでございます。市の5カ年計画、また市の執行部等の委員会等におきましての海洋性リゾートタウンの活用ということはよく耳にいたしますが、この市会選挙の前に観光業者と館山、船形漁協の両者の話し合いが、結局話し合いにならなくて非常にエキサイトして分かれてしまったということが何か新聞紙上等で報道されております。こういうことを考えた場合に、海ということに——何か海につくるということは館山市としてはタブー視されているんじゃないかということを考えるわけでございますが、私といたしましては元漁業関係ということもございまして、紀州白浜におけるところの漁業といいますか、あそこは館山湾の3分の1ぐらいの場所をハ

マチの蓄養場につくりまして、そこに漁業者はつくる、育てるというところの生産に励んでいるわけでございますが、それとタイアップいたしまして観光業者は遊覧船を仕立てて、それを観光の皆さんから料金を取って、それでそれを見学させるという二者が一つの海のテーマを非常に仲よくやっているという現実を踏まえまして、館山市といたしましてもこのような線に進んで、すぐに何かつくるということでのお互いのことでなくして、一応できるものから、そういった線から何か始めていったらいいじゃないかということで質問に立ったわけでございますが、この点について御回答願いたいと思います。

それから、第3点の文化ホールの件でございますが、館山市に文化ホール誘致の件でございます。現在におきましては、館山市の態勢としては、館山市に文化ホールが本当に誘致されるのかどうかということとはもう市民の大きな関心になっております。これに対しまして市としても積極的に取り組んでおると思いますし、また市民団体でございますところの皆さんがグループをつくりましてこの運動を先駆けるということも先ごろの新聞に掲載されておりましたが、これが果たして館山に誘致できる見通しがあるのかどうか、この点につきまして——ちょっときついような質問と思いますが、その見通しをお聞かせ願いたいと思っています。結局現在の館山市の皆さんの感情は、やはり文化ホールを館山へということとはもうほとんどの大多数の意見がそのものになっておると思います。結局これを館山に持ってくるということは、一応何か市民運動のようなものを盛り上げてましてやっぱりやらなかったらなかなかちょっと無理じゃないかなという感じもするんですが、この点についていかがなお考えでしょうか。

次に、市民サービスに対する考え方を問うということでございますが、考えてみれば館山市が予算を使って市民課の窓口とか、また福祉、消防とか、あらゆる面で市民サービスをしているわけでございまして、その中の何点かを拾うということになりますと何か重箱の隅をほじくっているようで——本当に失礼な言い方でございますが、ただ選挙の経験をいたしましてあらゆるところに行きますと、この問題はどうしたんだという問題が相当今大きく我々の方へとかかってくるわけでございまして、その賛否も市長さんも去年の

11月には経験しておると思いますが、地区、地区の要望等そういうものはどんなものかわかりと思います。小さい1点としては、市役所を中心とした官庁街、これは珍しく館山市は市役所まで来る途中でもうバスを下車されてしまった、そこから市役所まで来るということは、真夏の暑い盛りとか、真冬の寒い盛り、また雨降り等によっては非常に——これは年寄り、病身の方ばかりでなくして、中年以上の、車を持たない人は非常に不便を感じ、何とか市に参ります足だけは何とかできないかということはこれは非常に大きな要望として我々にかかってくるわけでございますが、この点市の方としてはいかにお考えでございますか。

その第2点といたしまして、国民年金の受給者の証明料の無料は考えられないかということでございますが、これ昨年無料化の請願が出たと思ってるんですが、そのときに委員会といたしましては年にたった1回のものでから200円ぐらいの証明料はしょうがないじゃないかという線で見送られたわけでございますが、そのときに一応附帯条件として低所得者、そういうものは控除してもらおうじゃないかという話が出たと思います。私今申し上げるのはお年寄りなんか——特に最初に年金をもらった方は年間に30万ぐらいの年金しかもらっておらない方が、例えばこの200円の証明を館山市にもらいに来るのに、例えば船形からバスで参りますと往復520円かかってしまう。結局当然館山へ来るとなれば食事、昼食等そういうものを考慮しますと、一応月に2万もらうかもらわないのを年寄りとかそういう人がこういうことを考えた場合には、せめて低所得者のこれだけの証明とかそういうものはやはり何かしてもらわなきゃいかぬということを言われたんで、一応ここでそういった低い方の証明書の無料——これは千葉県下でも何市かの市では実行されておるという話を聞いておりますので、この点につきまして一応考慮していただきたいと思っています。

3点の自衛のための消防、防犯の後援会費用ということでございますが、御承知のとおり自警、消防団また防犯協力会というのは市からある程度——年間に30万前後の補助金、また消防等は火災に出動された場合には昨年よりも増額されましてのアップになっておりますが、しかし実際問題として地元

で1年間に活躍するということになりますと、その後援会の費用というのが市の補助の大体4倍から5倍も経費がかかるという現実でございます。それで、これは後援会が集めるということではなくして、結局は町内会または区長会にそのしわ寄せが来て各戸別からまた値上げをしてくれという線がなっ
てまいりまして、本来館山で県市民税最低の2,700円か2,000円ぐらいの払っている方でも、年間に区費とか何かを入れますと3万以上超すという非常な苦悩を、出費が多くなっておるということを考慮いたしまして、例えば消防等におきますところの体につけるはんてんとか、半長靴、そういったもの、また消防同士の連絡の携帯無線とか、そういうのは市で何とか貸与してもらって、少しでも各町内会の負担の軽減を図っていただけないかということでございます。

以上、4点を私の通告質問といたします。それで、何かつい市長の言葉に甘えたということでこの4点を出したんですが、この4点が市長にとれば非常に面当てみたいな何か非常に難しい問題も含んでおると思いますが、ここで私が出した質問ということになりますと――ただ市長答弁になるまでには市の職員の皆さん方が非常に努力して、私の問題に対して答えを出すためにいろいろあちらへ回ったり、こちらへ回ったり、また実地を調べたり、非常に大変な努力をしておるということを承っておりますので、私もその努力を加味してこの与えられた時間内で質問を続けていきたいと思っています。よろしくをお願いします。

◎議長（福原 勤君） 庄司市長。

（市長庄司 厚君登壇）

◎市長（庄司 厚君） ただいまの流山議員の御質問にお答えいたします。

大きな第1の御質問の小さな第1点目、独自の総合病院をつくる場合の予算の見通しの問題、第2点目、医師会との話し合いによるどんな医療体制を考えるか、この2点とも関連がございますので、一括してお答え申し上げます。まず、病院の新設でございますけれども、医療法に基づきます千葉県
の保健医療計画によりますと、安房圏域は病床過剰である、病床が多過ぎる、そのため公営、民営を問わず増床を伴う新設は不可能である、これは皆様御

承知のとおりでございます。したがいまして、望ましい医療体制を確立するためには、改築を計画しております安房医師会病院の拡充、強化によることが最良と考えております。私たちはできる限りこれに協力する中で望ましい医療体制を要望してまいりたいと考えております。私たちの生活におきまして、医療機関への信頼感是最も重要なものでございます。御参考までに安房医師会病院の現況の一例を申し上げますと、病床の利用率におきましては平成3年4月76%と高い数値を示しておるわけであります。また、平成2年度の集団検診で発見されました胃がんの手術数におきましても、全38例中21例、55%を医師会病院で行っております。こういうことから地域住民の同病院に対する依存度は高いものと評価しております。

大きな第2点目の小さな第1点目、漁業者にとって生命線である海に何をつくるべきかとの御質問でございます。市の観光振興事業につきましては、広範な市民の意見等を踏まえた館山市基本計画に基づいて推進しているところでございます。したがいまして、今後ともこれらの基本計画等に基づきまして観光振興を推進するとともに、海の観光活用についても研究してまいりたいと考えております。

次に、小さな第2点目、紀州白浜におけるハマチ養殖と観光見学といったものは考えられないかとの御質問でございますが、御案内のように当市内におきましても平成2年の2月から西岬の坂田沖に設置してございます定置網を利用して、市内の宿泊業者と漁業者が一体となりまして観光定置網見学を実施しており、大変好評を得ていると伺っております。市といたしましては、観光漁業につきましても関係団体等の意見を聞きながら今後とも推進してまいりたいと考えております。

次に、大きな第3の文化ホール誘致に関する御質問でございますが、小さな第1、県予算による文化ホールの金額、第2、館山市への誘致の見通し、第3点目、市民運動による誘致成功、この3点に関しまして一括してお答え申し上げます。今年度からスタートいたしました千葉県「さわやかハートちば5か年計画」におきまして、地域における文化活動を支援し、身近に舞台芸術等が楽しめるようその拠点となる県立地域文化ホールを南地域に設置

されることが位置づけられております。予算、設置場所、設置内容等につきましては一切示されておられません。また、館山市への誘致についてでございますが、県当局に対しまして地域文化ホールの建設方につきまして今後もあらゆる機会をとらえ陳情等行い、議会を初め市民の皆様方の御協力をいただきながら当市への誘致実現につきまして積極的に活動してまいりたいと考えております。

次に、大きな第4の小さな第1点目、市役所を中心としたバスの運行についての御質問でございますが、現在の路線バスの状況は通勤時間帯に朝夕1便、南町経由で平群線の一部として運行されております。しかし、御質問の巡回バスのような運行とはこれは違うものでございます。かつて市役所を経由する巡回路線バスが運行されたこともありましたが、採算性の問題等で廃止され、現在に至っております。また、バス離れ現象が著しい今日、巡回路線バスの復活の可能性は難しいものと考えております。

次に、小さな第2点目、国民年金、福祉年金受給者の証明手数料の無料は考えられないかとの御質問でございますが、年金現況証明を含む各種証明手数料は受益者負担が原則となっておりますので、他の手数料との均衡上今のところ無料化は考えておりません。また、市役所から遠距離の方につきましては、市民連絡便と館山メールを御活用いただきたいと考えております。今後両制度の普及を図ってまいります。

次に、小さな第3点目、自衛のために消防、防犯の後援会費の町内会の負担軽減についての御質問でございますが、市消防団の運営等につきましては詰所及び防火水槽の建設、消防ポンプ自動車更新による購入、その他資機材等の費用は市が全額負担しております。また、火災出動等における費用弁償につきましても、平成2年度から従来の2倍程度に引き上げを行う等改善を図っているところでございます。防犯につきましては、市から館山市防犯協力会に対しまして事業費補助として100万円、さらに暴力団対策補助といたしまして30万円の合計130万円を補助しております。なお、消防無線受令機につきましては、全車両及び班長以上に貸与してございます。なお、今後火災現場で使用いたします消防団専用無線電話装置の導入を検討してまいりま

す。

以上でございます。

◎議長（福原 勤君） 流山源次郎君。

◎25番（流山源次郎君） 私の4点の質問に対しまして懇切丁寧なる御回答いただきましてありがとうございます。

今市長からお話がありました安房医師会病院の実績、私も通告をすることによってデータ等いろいろ研究いたしました結果、非常に驚くべきことは、我々初めといたしまして館山市民の皆さん方は、館山に総合病院がないということは結局木更津の君津病院とか亀田病院、それに対する、何かそこへ行けばある程度安心だというそういった気持ちでおったと思いますが、あのデータ等見ますと非常に安房医師会病院の実績というのは亀田の倍以上のものを行って、ほとんど安房郡下の住民の方が亀田よりも医師会病院のお世話になっておるというデータの実績を見まして、これはやはり我々としてはもっと市民に対してこういうものは宣伝すべきであるということを痛感したわけでございますが、ただ問題はそう我々が言っても何か市民の中には安房医師会病院はと首かしげる人が相当あると思います。

何かといいますと、ここに先生が1人いらっしゃいますが、安房医師会病院は会長さんが何か安房医師会病院の院長ということで、会長さんの任期が3年ぐらいでもう終わってまたかわってしまうということもある程度一つの市民に対する——一番信頼すべき人のあれが異動あるというせいじゃないかと思うんです。

それから、私実際問題といたしまして、ある方を館山市の各医院を3カ所、それから平群の国保病院ですか、それから保田の国保病院、当日5カ所もう車に乗せて回ったわけでございますが、その方はどこの病院に行きましてこれは風邪をこじらしたんだ、また膠原病という非常に不治の病だという宣言をされてしまっただけで薬をもらってくるわけですが、うちへ帰ってきても結局どうしようもない、ますます病状が悪化するということで、今にも息が絶えそうな当人がせめて死ぬ前に鴨川の亀田へ連れて行ってもらいたいということで半死半生の病人を亀田へ送ったという経験がございまして、そのときに

亀田病院に参りまして、病室へ入ったらすぐ出てきてこれはツツガムシだ、1日、2日おくれたらもう手おくれになったということで、入院しまして幸いに一命を取りとめた。

それから、いま一点は安房医師会病院に救急で運んだ病人がございますが、そのときに当直の先生がもうこの人はだめだ、家族をすぐに呼びなさいということだったんでございますが、その親戚の方がいまして、じゃ一応中央病院行ってみようということで夜中に中央病院へ運んだところが、これは頭を強く何かで打って中で出血しているから、この血を抜けばもう治るよということで、すぐ手術をした結果そのあすすぐ退院するというような状態といえますか、そういうこともしばしばあったわけございまして、そういった点で実際多くの医療体制が、医師会病院の実績というものを市民が知らない。たまたまそういった例があったということで非常に医師会病院に対する不信といえますか、これはやはり市民の信頼のおける病院に、やはり市なりまた医師会病院なりが市民に相当の宣伝をして、また責任体制の確立ということはこれ必要じゃないかと思うんですが、この点につきまして何かございましたら……。

◎議長（福原 勤君） 民生部長。

◎民生部長（佐藤澄雄君） ただいまの病状関係につきましては、私の方から、また市として論評といえますか、そういうのは避けたいと思いますけれども、ただ安房医師会病院の病床利用率及び胃がんの手術の例、また千葉県で計画してございます千葉県の医療計画の中で医師会病院というのは大変高く評価されているわけでございます。プライマリーケアの——いわゆる初歩の病気を治すプライマリーケアについては全国的に有数な開放病院であるというようなことが大変高く評価されているわけでございます。そういった面から、ひとつこれからもそういう面でさらに医師会ともども市も住民に対する啓発活動、そういう面を御協力していきたいというふうに考えております。

以上でございます。

◎議長（福原 勤君） 流山源次郎君。

◎25番（流山源次郎君） 次の第2点に移りますが、市長の説明でもう十

分了解は得ました。ただ、要望として、私市議会選挙前に行われました館山、船形漁協の漁民の方たちとそれから観光協会関係の話し合いの場というこれが、非常に何か話し合いでなくしてパニック状態を起こして物別れになったということで、これ館山市にとって非常に悲しいことだと思うんです。なぜならば館山の観光ということ——市会議員といたしましてこの席にある人間におきましては、館山市は活性されないじゃないか、おまえたち何しているんだということは、ほとんど議員の多くが市民に追及されるわけでございます。結局館山市の将来を憂える人は何かそこに活性化のもとということは、もうこれはだれしも考える問題と思います。

それについて、一応ある議員の方は館山湾に噴水を上げたらということを提案したと思います。これはもう十分その人の気持ちはわかります。また、この噴水は実際問題としてよく研究してまいりますれば海を邪魔するものでもないし、また市民の皆さんがこの上がる噴水によって非常に汚染を受けるということは皆無——ということは、私どもヨーロッパ旅行に議長会の参加をしたときにスイスの噴水の現状を見たわけでございますが、この現状は海の中へ施設をつくるんでなくして栈橋を利用して、栈橋の下におかから鉄管を通して栈橋の鼻からおかの圧力によって噴水を上げておる。それで、館山のように季節風がちょっとするともう吹いてくるところでは 100メートルも上がったら付近の人に迷惑かけるんじゃないかという声がございしますが、これは非常にコンピューターによって制御されまして、私なんかちょうど行きましたら観光のガイドさんが日本人の女性の方でございましたが、このガイドさんいわくあんた方は幸せですよ、みんなスイスへ来てこの 100メートルの噴水を見ようとしても見られない。なぜかというと、風が吹くと自動的にもう噴水がとまってしまて上がらないんだ。ですから、風のないすばらしい日にあんた方来たんだから、あんた方は世界一の幸せ者だ、この噴水の姿を見られるということは非常に幸せだということでございまして、その例を考えましても周囲の市民にはあえて被害かからない。また、漁業関係——海の中を埋め立てるわけでなくして今使っている栈橋の下に鉄管を通すということだったら、これは漁民の方にも納得してもらえらると思うんです。

ところが、こういうふうになったということは、いま一つ我々がこの際市の執行部、また皆さん方に訴えたいことは、私ども漁民は非常に戦後虐げられておったわけです。それが積もり積もって人に対するところの憎しみといえますか、何か人を信用できないという線になったわけでございます。その一つは、私ども戦後農業、漁業は統制経済によって非常に恵まれたわけでございます。はっきり申しますと、市の役所の勤め人さんの平均の給料が一晩のあぐり漁によって、1日の給料と1カ月分の皆さん方官庁の役人の給料と匹敵するというまで非常にいい時期がございました。ところが、あるとき水産関係の偉い役人さんがこういうことを言ったんです。君たちはもう二、三年すると漁師は10分の1になってしまう——何か変なことを言うなと思っておったら案の定——何か今考えると、その二、三年たったところは農業はそのままになって漁業は統制撤廃されてしまったわけでございます。そうなりますと、魚は網いっぱいとっても二束三文、結局大漁貧乏になってしまっ、働けど働けど大漁すればするほど食えなくなってしまうということで、結局若い漁業者、またその親たちは自分の子供をこんなに働いて働いて大漁しても貧乏だということに対してはとてどうしようもないということで、結局東京とかほかへ働きに行ったわけで、結局これは国の方針——それが国の話を聞きますと、国の方針で労働力を集中するために結局第1番の犠牲になったのは漁師であるということを我々としては言いたいと思っております。

それから、知らないうちに船形から川名浜、八幡の沖にかけましては非常にシラスの日本でも有数の漁獲された場所でございます。また、平砂浦の相浜はエビの小さい稚魚でございますが、アミ、アミとよく漁師言葉で申しますが、これの物すごくとれたところです。現在それがいつの間にかもうほとんど皆無に等しい状態になってしまったということは、私ども一生懸命ただ海で働けばいいと思っておるうちに、知らず知らずのうちにそういうものは全然なくなってしまう環境になってしまったということです。ですから、今働いている人は好き好んで漁師をやめたわけでなくて、ある程度はやはり国の政策によって10分の1の労働力に減らされた。その海を守るためには、何かまたそれやられたら結局漁民の働き場所が——漁民とすれば田んぼであ

り畑である海を犯されるということは非常に苦痛なことをございまして、それに対することが、我々の知らないうちにこういうことがやられたんだという漁民の怒りが、結局は何をしてもそれに対する反発になったんだと思うわけをございまして、この点を十分に考えましてやはり海の噴水もまた漁業者もお互いに話し合って、そういったことの解決を図りながら——我々としても今残された漁民はもう後継者がいないから今にだめになってしまうだろうという考えでなくして、市の水産行政の計画書を見ましても若い青年の育成、そういったもので漁業を育てるということをうたっておりますので、この辺も十分に加味されまして、今後の観光、漁業というものについてお力添えを願いたいと思っています。

それで、今市長答弁の中に、西岬地区におきまして宿泊者と大謀の見学等ですか、もう既にそういうことをやっておるということを聞きまして結構なことだと思います。これを広げまして、今それはごく一部でございますので、せめて白浜のああいう大きな大蓄場となれば館山市のやはり産業の一つの大きな目玉になってくると思いますんで、将来についてそういったことを十分に研究していただきたいと思っております。

それから、いま一点文化ホールの件でございます。市の方としても今の答弁では非常に努力をしておるということは十分にわかります。ただ、私ちょっとひっかかることは、私どもちょうど議会に出ました20年ぐらい前に今の水産試験場が千倉に移動するという問題がございましたが、このときにも館山には議長までやった県会議員の先生がいらっしゃるから大丈夫だろうとみんな安心を食っておって、まして現在館山にあるものを、新しく誘致でなくであるものをですからもう館山に存続になるんだらうと言ったら、幕をあげてみたら港のない千倉に水産試験場が移転してしまった。考えてみると、そのときには千倉に鈴木惣之助という非常に水産関係の大物の議員がおったわけをございまして、そういうのを考えますと私ども耳に入ってくるのは、ある県の方がもう鴨川に決まってしまったよということを耳にするわけでございます。これは昔の水産試験場の問題をとってみてもやはり何かおかしいなということで我々考えておるんですが、我々といたしましてもこれから先福

原議長にお願いして文化ホール誘致のための特別委員会等も議会としてつくりたいという考えを持っておりますが、市長といたしましてこの市民運動、我々中心になって皆さんと一緒に館山に誘致するというその問題についてどういうお考えあるかどうか、市長さんとして一言お聞かせ願いたいと思っています。

◎議長（福原 勤君） 庄司市長。

◎市長（庄司 厚君） 市民運動の盛り上がり結構なことじゃないかと思うし、ぜひとも私が言うのもおかしいんですけどお願いして、そういう市民の熱意を背景にして県の方をお願いする。また、直接お願いしていただいても結構かと思いますが、今後その状況を見ながらお互いに相談していきたい、こう考えておりますので、よろしく。

◎議長（福原 勤君） 流山源次郎君。

◎25番（流山源次郎君） どうもありがとうございました。

では、私の通告はこれで終わりたいと思います。ありがとうございました。

◎議長（福原 勤君） 以上で25番議員流山源次郎君の質問を終わります。

次に、18番議員日下君敏君。御登壇願います。

（18番議員日下君敏君登壇）

◎18番（日下君敏君） 私は、既に通告してございます事項につきまして市長にその見解をお伺いしたいと思うものでございます。

私の質問いたします事項は以下の3点でございまして、1つが公共用地の取得について、抽象的に書いてございますが、この内容は富士ディーゼルの跡地の問題について取り上げるつもりでございます。

第2点目が建築確認申請書に添付する同意書について、これも抽象的で大変申しわけなく思っていますが、これは建築確認申請の際に、浄化槽を設置いたす際に同意書といいますか、協定書といいますか、それを添付いたしますんで、その問題についてお聞きいたしたいと思います。

第3点目が市の文化施策についてということでございまして、一応4項目ほどお聞きいたしたいと思うわけでありまして。第1点目が例年城山で行われてきました薪能についてどうお思いになっているのか。本年度は休止いたす

ということでございますが、この問題についてお聞きいたしたい。第2点目が城山公園の茶室についてであります。これはオープン化をお願いしたいということであります。第3点目、大型バス「市民号」について。これは大型バスを市の方で御用意願えればありがたいことではないのかなということでありまして、この「市民号」というのは名前をつければこういう名前になるかなというところで大型バス「市民号」ということにしてあります。第4点目が文化ホールについてでございます。これたゞいま流山議員が御質問いたしました。ほぼ同趣旨のものでございまして、今回の通告では9人の質問者がありますが、そのうち私を含め4人までもこの問題について取り上げているということは大変これはトピックな問題だろうと思います。でありますから、流山さんとの重複を恐れずに一応予定どおりお聞きいたす所存でございます。以下、順次質問をいたしたいと存じます。

第1点目の公共用地の取得 ― つまり富士ディーゼルの跡地の問題であります。八幡海岸にジャスコの隣に富士ディーゼルがございました。この敷地が約3万坪、坪で申すと3万坪大きなものがあるわけでございますが、この富士ディーゼルは平成元年に会社を閉じるということになりまして、人員の整理、その他の問題が起きました。このときに平成元年11月に館山市は従業員の方々の再就職等々もお世話いたしましょうということの中で、この跡地利用についても館山市としても何とかこれを有効に使いたいということの申し入れをいたしておるわけでございます。既にして平成元年11月から今月になりましてもう既に2年半経過いたしておるわけでございます。その間一体どうなっておるのかなということで現況をお聞かせ願いたい。どういう進捗状況になっておるのか、お聞きいたしたいということであります。この2年半の間には館山商工会議所も市で取得して有効にこの土地利用をいたしていただきたいというような要望がたしか出ているはずでございます。そういうことを含めてたゞいま御質問いたしておるわけでございます。あその土地は約3万坪の土地、これが海に近くて、交通の便がよくて、市の中心部にも近いということ館山市を中心に土地を見た場合に、もうあれだけまとまった土地はもうないわけであります。ですから、この土地を有効に利用する

ということが館山市の発展へつながるだろうというふうを考えまして大変重要、重大な問題であると思いますので、ひとつ現況についてお聞かせ願いたいと思うわけであります。

第2点目が建築確認申請に添付いたします同意書でございます。建築をいたす場合に建築確認申請が出されますが、その際にいわゆる建築主が浄化槽を設置いたしたいというような場合には、それを流してよろしいという同意書——協定書とかいろいろな呼び方があるんでしょうけども、同意書ということになりますと、この同意書を添付するということになっております。浄化槽の5人槽以上の浄化槽につきましては、漁港区域内に直接放流いたします場合あるいは利水関係のある農業用排水路に放流いたします場合にはこの当該関係者の同意をとってきなさいよ、こうなっております。特に、これが20人槽になりますとこれはもう無条件で放流先の同意書をとってこい、こういうことになっております。つまりほとんど義務づけられていると言っていいと思うんですけれども、要するに建築確認の際にその同意書をつけて、浄化槽を設置する場合つけて、それで確認申請を、許可をとる、こういうことになっております。

結論から先に申しますと、この同意書はもう要らない、私はさように思うわけであります。その理由は、今浄化槽につきましてはいろいろな国の基準、県の基準あります。特に、国の基準がありまして、厚生省を中心としてBODだとかいろいろな化学的な数値について基準ができています。その基準をクリアしてその浄化槽ができておるわけでありますから、それをあえてさらにまたクリアしておるにもかかわらず同意書をとってこいということは既にして後ろ向き行政だと思うわけです。ですから、なぜ市がこのように浄化槽について協定書をとってこいというふうに言っておるのか、お聞きいたしたいと思うわけであります。市の方のPRを見ましても——なるほど確かに海も川も汚れています。しかしながら、その河川の汚れは市が言っておりますようにもうこれは家庭の生活雑排水が主力であるということはもう常識の範囲なんです。これはもう国もそう言っている。でありますから、館山市も三角コーナーをつくったり、あるいは抜本的解決のために公共下水道の

整備をしようじゃないか、お金もかける、時間もかけてやろうじゃないかということになっているわけで、この海と川の汚れはもう生活雑排水ということでもうわかっている。浄化槽の方は基準をクリアしている。にもかかわらず、同意書をとってこいというのはいかがなものであるか、こういうふうにするわけであります。言ってみますと、矛盾した行政ではなかろうか、もっと言わせてもらえれば少し後ろ向きの行政というふうに存ずるわけでございますけれども、市の方は何ゆえこの同意書をとっておるのか、お聞きいたしたいと存ずるところであります。

第3点目が市の文化施策についてお聞きいたします。この第1点の薪能、これは城山公園の夏のイベントといたしましてこれを定着したかのように見えました。しかしながら、昨今新聞等々を見ますと、今年度は中止したということであります。その中止の理由をお聞きいたしたいと存ずるところであります。この薪能は昭和59年から始まりまして、昨年まで7回にわたって行われて公演されてきたわけであります。私はこういう伝統芸術というのはやはり守るべきなんだ、保存すべきなんだと思うわけであります。やはり夏の夜のひとときを幽玄の世界にいざなうという、この館山市へ行けばその薪能が見れますよということこそ館山のPRだ、観光立市を標榜している館山のPRだと思うわけです。聞くところによりますと、しかしながらこの薪能が年々集客能力といいますか、誘客能力というか、落ちてきたんで、これは一度考え直さなくちゃならぬなということで休止になったというふうに聞いておりますが、これは少し考え方が違うのではないかと思うわけです。勘ぐってみますと、芸術市長でありました半澤さんがおかわりになって、今度学芸市長と申しますか、庄司市長になったからこの芸術の方はひとつ待ってくれというようなこともなかろうかと存じますけれども、こういう伝統芸術、古典芸術というのはやはり保存すべきであるし、しかもこういうものが興行的に黒字になるはずがないんです。ほとんど何でもかんでもこういう古典なんていうのは公演が大変難しくなっている。日本の歌舞伎においてしかり、人形浄瑠璃においてしかりです。西洋のオペラ、クラシックオーケストラ、もうほとんどこれは国が援助しているわけです。これはやはりこういう伝統

芸術を、古典芸術を次代につなげる、これが我々人間の文化だと思うわけです。私はこういうこと言うと語弊もございますが、館山市のような田舎の市でもこれだけ立派なものをやっているんだということが大切なんだと思うわけですが、なぜこの薪能を今般中止いたし、来年度また考えるというようなことになっておるのか、私の意見と絡ませながら御答弁を願いたいと存ずるところであります。

次が城山公園の茶室についてでございます。これ茶室ということにしてありますが、茶室及び日本庭園というふうに読みかえていただきたいと思います。実はこの問題につきましては私は3月議会で同じ質問をさせていただいております。公園、茶室及び日本庭園は広くオープンして、館山市民はもちろん城山を訪れる観光客の方々にも十分見ていただくようにすべきであるというふうな意見を述べさせていただきました。市長からも前向きな御答弁はこれいただいておりますけれども、その後私の方も選挙を経てきたものですから、この選挙の中で私の方もこれ確約いたしておりますから、せっかくお時間をいただきましたものでいま一度御確認の意味でさせていただきたい、こう思うわけです。茶室は4,000万かかって、庭園がほぼ6,000万、約1億かかっておる立派なものであります。私も拝見させていただきましたが、本格的なものです。日本全国どこへ出しても恥ずかしくないようなものだと思うんです。しかし、こういう茶室、日本庭園等々はやはり茶会とか生け花とかそういう一部のグループの方々ではなくて、先ほど申しましたようにひとつ広く館山市民の皆様方に積極的にオープンしていただきたいと思います。これについては、館山市の方でも利用促進検討委員会というんでしょうか、そういうものを設置いたして前向きに御検討を願っているということは私も御理解させていただいておりますけれども、いま一度この問題についてお聞きいたしたいと思うのであります。

次が大型バス「市民号」というもののようなものはいかがなものかどうですかということですが、御案内のように館山市には大型バスがありません。しかしながら、いろいろこういう時代になりまして諸事業が多くなる、公的な事業が多くなる、ある程度の団体で出かけなくちゃならぬということ

もあるわけです。あるいはまた、小学校、中学校の学校関係でクラスごとあるいは学年ごとでいろいろな視察をいたす生徒の視察もあるでしょう。そういう学校関係の行事もある。そうすると、やはりどうしてもいろいろに供用でき得る大型バスが必要ではなかろうかと存ずるわけでございます。たまたま今議会に対して福祉用のバスが欲しいというような陳情書も出ておると理解しておりますが、こういうこともやはり大型バスが必要ではなかろうかというようなニーズが高まってきた結果ではないかと存ずるわけであります。安房郡市を見ましても、大型バスを持っておりますのが、鋸南町、富山町、丸山町、こういうところは供用の大型バスを持っておりますからやはり館山も必要じゃなかろうかと思うわけであります。一部には館山市にはバスの民間業者があるんで、これに気兼ねしてこれを持てないんだよというような御意見もあるようであります。何も買わなくてもいいわけで、委託業務とかそういうことでもよろしいわけでございますので、どうもマイクロではやはり今日日大きな視察等々には不便を感じるとはなかろうかと存じますものですから、この大型バスについて名前をつければ「市民号」とかあるいはいろんな名前がつくでしょうが、大型バスの必要性について市はどのようにお考えなのか、お聞かせ願いたいと存ずるところであります。

最後が文化ホールであります。今これが一番館山市でトピックな問題でありまして、ほとんど流山議員がお聞きしたということでもあります。しかしながら、重複を恐れずに御質問だけをいたします。さわやかハートちば5か年計画の中で、南地域へとにかく――1個という個数はないんだそうでありまして、安房、君津へ、南地区へ建設をいたすという一項が入っておるそうでありまして、このさわやかハートちば5か年計画といいますと平成3年、今年から始まって7年で終了いたすということでもあります。先ほども出ましたように、やはり文化ホールというものは館山市も香り高い福祉文化ということをやっておりますから、やはりこれは建設していただければ大変ありがたいと存ずるわけであります。民間の方々も新聞報道等によりますと、南房総住民の会というようなものが発足いたして、これからまた行政と絡めながらやっていくんだというようなことだろうと思いますが、館山市の

場合例のコミュニティセンターにはその文化ホールを建てるだけの敷地がある。ただ、あそこは前市長さんのときにあそこへ音楽ホール建てようということでありましたが、館山市議会特別委員会で時期尚早ということで流れました。しかしながら、62年3月に市民文化団体がやはり建ててくれということとを今度もう一度議会の方に陳情がありまして、これは採択いたした、やろうじゃないですかということをした経緯がございますから、重複を恐れずに御質問いたします。

市長におかれましては簡潔な御答弁を御期待いたしまして、また答弁によりまして再質問をさせていただきたいと思います。

◎議長（福原 勤君） 庄司市長。

（市長庄司 厚君登壇）

◎市長（庄司 厚君） ただいまの日下議員の御質問にお答えいたします。

大きな第1の公共用地の取得についての御質問でございますが、この富士ディーゼルの跡地を館山市で一括購入することについては、現在の市の財政状況では困難であるため千葉県において買い上げていただくようお願いしているところでございます。しかし、大変難しい状況ではございますが、今後とも引き続き鋭意努力してまいりたいと考えております。

大きな第2の建築確認申請書に添付する同意書についての御質問でございますが、市といたしましては確認申請及び浄化槽の設置届け出に際して同意書の添付の義務づけはいたしておりません。しかしながら、昭和63年5月館山市漁業協同組合連合協議会から、「浄化槽の設置、適正な維持管理、規定された水質の放流等について」の要望書が提出されました。その内容は、「漁港内に直接放流する場合、20人槽以上の浄化槽を設置する場合には関係する漁業協同組合に協議するよう指導をお願いしたい」とのことだったので、浄化槽設置予定者に協議をするようお願いをいたしております。

大きな第3の小さな第1点目、薪能についての御質問でございますが、館山薪能につきましては昭和59年に観光施策として館山薪能実行委員会を組織し、実施してきたところでございます。当初は1,280名の方が鑑賞いたしましたが、回を重ねるごとに鑑賞する人が減り続け、第7回目の平成2年には

半減いたしまして 615名と減少してきたのでございます。本年2月に開催いたしました観光行事運営委員会においてこれらの現状を踏まえ協議いたしましたところ、観光客誘致を目的とした観光行事として適当かどうか等の意見がなされ、とりあえず本年度は見送りにし、市民等の反響を見て再度検討することになったものでございます。

大きな第3の小さな第2点目、城山公園の茶室及び日本庭園についての御質問でございますが、教育長より答弁させます。

次に、小さな第3点目、大型バス「市民号」についての御質問でございますが、現在使用中のマイクロバスとの調整、運転手、車庫の確保、維持管理費等、管理運営上の問題について十分なる調査検討をしまいたいと存じます。

次に、小さな第4点目、文化ホールについて御質問でございますが、さきの流山議員にお答えしましたとおり、活力ある文化福祉都市として必要な施設と考えております。今後も積極的に誘致活動を行っていく所存でございますので、議員各位には御理解と御協力をお願いいたしたいと思っております。

以上でございます。

◎議長（福原 勤君） 福原教育長。

（教育長福原 修君登壇）

◎教育長（福原 修君） 茶室についての御質問にお答えいたします。この4月より茶室の運営につきまして教育委員会の方に移行されましたので、私から答弁させていただきます。

御質問にありましたとおり、現在市民の代表者によります城山公園茶室利用促進検討委員会を5月10日に設置いたしまして、現在その運営につきまして検討中でございます。委員の皆様方から御提言をいただいた内容を十分参考にして運営面について見直しを行い、一層の利用促進を図ってまいりたい、このように考えております。

以上です。

◎議長（福原 勤君） 日下君敏君。

◎18番（日下君敏君） ただいま市長及び教育長の御答弁で、私がお聞き

いたしたのについては十分納得させていただくところでございます。その余のものについて少しくお聞きいたしたいと存ずるので、再質問をさせていただきたいと思います。

第1点の富士ディーゼルの跡地でございますが、答弁わかりました。県へ要請している、市の方では今のところ財政上もちょっと困難であるというようなことだそうです。それはそれでわかりました。いわゆる3万坪の敷地の中で約1割ほど、3,000坪程度の工場がございまして、この工場が現在いわゆる富士ディーゼルが生産したディーゼルエンジンのメンテナンスと申しますか、アフターサービスと申しますか、そういうことで稼働を現実にしておる。しかしながら、敷地をきれいにするためにはこの工場を移転させてあそこをきれいなものにしておいた方がいろいろ都合がよろしいというようなことで代替問題がこれは当然起きておるというふうに聞いておりますが、ここに至ってこの代替問題の工場をひとつほかへ移転させるということが非常に重要な問題としてこの問題は起きておるというふうに思うんでありますが、代替地について市の方は一、二提示してある。しかしながら、それがどうも妥結と申しますか、決定に及んでいないというふうにお聞きするわけであります。例えば、一つの例として旧と申しますか、東京水産大学の跡地を提示したならば、そこはもう住居地域でありますから何馬力、何百馬力のものが入るものは工場としても当然不適切だというような話も聞いております。この代替問題について簡潔で結構ですからどのようなところにあるのか、お聞かせ願いたいと思います。

◎議長（福原 勤君） 市長公室長。

◎市長公室長（佐藤輝雄君） 御質問の趣旨でございますけれども、現在の代替地を確保するに至っては、現在確かに一、二の候補地は提示いたしましたけれども、現在確保するまでには至ってございません。引き続き候補地を探すべく努力しているのが現状でございます。

◎議長（福原 勤君） 日下君敏君。

◎18番（日下君敏君） ただいま申し述べました東京水産大学の跡地はだめだ、次にここは大丈夫だという農振地域をこれは大丈夫だということで提

示した。富士ディーゼル側はそれで結構です、これ大丈夫ですか、農振ですが、いやそれはもう大丈夫です、県と交渉、国と交渉してこれはもう確実でありますというような代替地を提示したんだが、今のところ全く動きがない、県に対しても申請しておらないというようなことを聞きましたが、これは事実でございましょうか。

◎議長（福原 勤君） 佐藤公室長。

◎市長公室長（佐藤輝雄君） 確かにそういう事実でございまして、一部農地につきまして交渉した経緯がございますけれども、農振地域の指定の除外が困難だということで進展していないのが現状でございます。

◎議長（福原 勤君） 日下君敏君。

◎18番（日下君敏君） ということはなぜ進展していないんですか、主な理由をお聞かせください。答えられる範囲で結構です。

◎議長（福原 勤君） 佐藤公室長。

◎市長公室長（佐藤輝雄君） 現在区画整理をしてから転用できる年限がございしますが、その年限がまだ到達していなかったということで進展していないということでございます。

◎議長（福原 勤君） 日下君敏君。

◎18番（日下君敏君） 大体農振地域というものは本来原則として転用ができないわけでありますから、さらに区画整理をしておるところが余計できないということはこれはもう常識の範囲です。にもかかわらずここでは提示いたしたというようなことになると、これは自信があったのか、あるいはとりあえず時間稼ぎで出しておいたのか、勘ぐればですよ。では、当初やはりこれは大丈夫だったということだったわけでしょう。その後これが何ら進展しておらないということは、何かそこに事情の変化といいますか、状況の変化といいますか、そういうものがあつたんですか。

◎議長（福原 勤君） 佐藤公室長。

◎市長公室長（佐藤輝雄君） 従来からの経過は十分聞いておりませんが、一応その時点のとらえ方にちょっとお互いの違いがあつたということを知っております。

◎議長（福原 勤君） 日下君敏君。

◎18番（日下君敏君） やはり提示いたす以上は親切に——これだめなものを最初から出していってそのままずるずるずると時間を稼ぐという——稼いだかどうか分かりません。結果は時間を稼いだことになっておるわけです。しかも、これ既に2年半を経過している問題であります。これがその所有者が登記簿上は3万坪富士ディーゼル及び富士電気ということらしいんですけれども、そのバックには日本鋼管が——実質上のオーナーはどうも日本鋼管であるというようなことで、これだけのでっかい民間企業、それこそ日本を代表し、世界へ出ても日本を代表する大企業であるから2年半たってもまあまあ待ちましようというようなことだと思うんです。それが例えばサービス会社あるいは不動産会社のものなら、これはもうとくに館山市はそんなにずるずる引っ張ったんじゃ困りますよということととくにこれ転売されちゃったと思うんです。そういう意味で、やはり館山市にも一生懸命頑張ってもらわなきゃあかんわけでありましたが、何さまやはり民間企業もいつまでだって、でかいからといって待てる筋のものでありません。やっぱり向こうも会社となると株主もおるし、一体どうなっているんだ。今もうリゾートブームで地価が上がってきておるし、あそこを遊ばせておく手はないよというようなことが起きていると思うんです。だから、会社側がやはり市が市の発展のために使いたいならば、最初から申し入れてあったんだからというような好意のもとでこれは動いていると思うんです。ですから、やはりこれは緩いとは申しませんけれども、いまして一生懸命代替地問題も考えていただきたいと思うわけでありましたが、ただいまの答弁で県に買っていただくことになっているということですね。いや、県へ要望しておる、要請しているんですか、ではその状況はどうなっておりますか。

◎議長（福原 勤君） 佐藤公室長。

◎市長公室長（佐藤輝雄君） 現在一応県の方としましては企画部あるいは企業庁等に働きかけを行っておりますけれども、極めて難しい現況でございます。

◎議長（福原 勤君） 日下君敏君。

◎18番（日下君敏君） 極めて苦しい状況になりますと、当初一生懸命使おうというところがだんだん、だんだん実現が極めて薄くなってきたというふうに思うんですが、私も聞いたところによりますと県の方もとにかく企業庁あたりには数千億の余剰資金というと語弊がありますが、積立金もあるし、まあまあ館山市がそういう窮状にあるならばひとつ手を差し伸べないことはないよ。しかしながら、これは館山市が持ってきて県が買うんですから、単に不動産屋が右から左へ取引するものじゃないから、有効利用計画書持ってい、これこれここはこう使う、こう使う、ここはこうなんだ、有効利用計画書持っていということ、何か持っていってこれが少し貧弱であったよというような話もあるんですが、そういうことで県との交渉がいささかずるずると来ておるということですか。

◎議長（福原 勤君） 佐藤公室長。

◎市長公室長（佐藤輝雄君） 確かにそのように県の方へ持っていきましたらば、いわゆる利用計画等を具体的に持参してくれということでございましたので、一応内容を検討しまして持参しておりますけれども、現実に県の5カ年計画のもう骨子が決まっているということ及び県で取り上げやすいプランであるということを経験で持っていっていただけでございますけれども、なかなか十分県として取り上げることはできないということで一応難しい状況になっております。

◎議長（福原 勤君） 日下君敏君。

◎18番（日下君敏君） ですから、何かそういうことであろうからひとつこの問題を取り上げて御質問させてもらっているんですが、やはりあれだけのものを――会社側の方も館山市が有効に使うならよろしいですよということでこれはスタートしておるんです。ですから、これはもう難しいこともわかりますが、お金は出しましょう――もう一度じゃお聞きしますが、これ館山市が買えるんですか、そういう力ありますか、もう一度御答弁ください。

◎議長（福原 勤君） 総務部長。

◎総務部長（二通英雄君） 市で買えるかということでございますけれども、本件の土地は一括購入を求められておるものでございまして、市が単年度に

一般財源で購入できる規模のものではございません。したがって、財源を他に求める必要がございますが、特に市債への依存度が高くなってまいります。しかし、市債の現在高は平成3年度でおよそ100億……

◎18番（日下君敏君） 簡単で結構です、買えるかどうか。

◎総務部長（二通英雄君） そういうわけで、現状の市の財政の中では無理がございます。

◎議長（福原 勤君） 日下君敏君。

◎18番（日下君敏君） ならば県にお願いする以外ないわけです。ですから、これは大変難しい問題でありましょうけれども、ひとつ頑張ってもらわなきゃいかぬわけですね、あれだけの土地が館山市の発展のために使えるわけですから。しかしながら、相手も民間業者でありますからいつまでも待つというわけにいかぬわけです。それで、もうとにかくこれは2段に分けて、第1段では何が何でもひとつ工場の跡地問題を探す、早急に探す。そして、一方で県に対してはしっかりした計画表をつけて、とにかくにも押し倒してでも県の出資を仰ぐということだろうと思うんです。ひとつ市長そういうふうに私は思うんですけれども、新市長の御抱負をお聞かせ願いたいと思います。

◎議長（福原 勤君） 庄司市長。

◎市長（庄司 厚君） 熱烈な御支援ありがとうございました。そういう姿勢で今県と交渉中でございますので、よろしくひとつお願いいたします。

◎議長（福原 勤君） 日下君敏君。

◎18番（日下君敏君） 市長のそういう御回答でございますので、よろしくお願いしたいと思います。時間もありませんので次に行きます。

浄化槽の問題ですけれども、答弁によりますと義務づけはしていないということでございますが、私はどうもちょっと納得できないんです。と申しますのは、やはり根本的にはさっき言いましたように厚生省がつくった基準をクリアしてきれいな水が流れている。それなのに一応それをつけさせる、そういうことでありますから、どうも矛盾した後ろ向きのこれは行政ではなかろうかと思うわけでございます。じゃ、なぜ私がこの問題を何かつ

つくような格好でやるかといいますと、最終的に流れるのはほぼ漁協と農業関係であります、館山市の場合海が主体でございます。この問題を取り上げたのはいろいろな話が私のところへ入ってくるわけです。そこでお聞きいたしているんですが、ただいまの市長答弁で63年5月に漁協の方が館山市へ要請して協議するように指導をしてくれということで館山市が指導に入った。この時点から一つの新しい側面を迎えたと思うんです。つまり現在建築主が浄化槽をつくりたいという場合各漁協に対して協議を申し入れます。そうしますと、20人以上がこれとにかく必要でありますから、そうするといわゆる協定——会議費とか何とかという、簡単に言うと我々が言う判こ代、判こ代が取られるんです。しかも、これは私はうわさではあります、館山市には5つの漁業協同組合があるが、ほとんど一律同額のもので来る。例えば20人槽は幾ら、20人槽でございますということで協議に行くと、はいあなたは幾ら、30人槽です、はいあなたは幾ら、50人槽、はいあなたは幾らというふうにはほとんど一定の額のもので来る。私はこの各漁協が一定の額で取るということは何か法律的にどこか疑義があるんじゃないかなとは思いますが、その問題はこっちに置いて、そういう会議費とか俗に言う判こ代が取られておる、63年5月以降の行政指導が行われてから。そういうことを市御当局は御理解しておりますか。

◎議長（福原 勤君） 民生部長。

◎民生部長（佐藤澄雄君） そういうことは聞いておりません。

◎議長（福原 勤君） 日下君敏君。

◎18番（日下君敏君） 先ほど強制はしません、強制でなくてこれは任意ですよということなわけです。ちょっとお聞きするんですけれども、じゃ63年5月以降の建築確認で20人槽以上の浄化槽を設置するという場合に協議書を添付しなくて——同意書でしょうか、添付しなくて通った事例はありますか、あればお聞かせ願います。御記憶で結構です。

◎議長（福原 勤君） 建設部長。

◎建設部長（伊東 衛君） そういったことを確認してはおりません。ただし、建築確認というのは確認行為でもって他の法令がどうであるとかこうで

あるとかということを確認はしておらないわけでございます。そんな関係からそれが無いからといって館山土木の方に回付するとかしないとかということとはございません。

以上です。

◎議長（福原 勤君） 日下君敏君。

◎18番（日下君敏君） 私が聞いておりますのは、添付していないで確認を通ったという記憶があるかどうかだけを聞いているんです。ありますかありませんか。

◎議長（福原 勤君） 建設部長。

◎建設部長（伊東 衛君） 記憶にございません。

◎議長（福原 勤君） 日下君敏君。

◎18番（日下君敏君）\ ですから、私が申し述べたいのは、ほぼこれはもう強制なんです。任意で協議してきてくださいよというんですけれども、これ事実上はもう強制なんです。つまりその確認申請書に同意書を添付いたしませんとほとんど浄化槽が通らない。ですから、私はこれは強制されておるよというふうに言いたいのであります。ただ、このいわゆる判こ代を取る——俗に言う、世間で言う判こ代を取るというのは仕方がないと思うんです、私。これはもうわかりますよね、余分な仕事が出てくるわけですから。それじゃこれがいいかどうか協議した上で出すというから判こ代は仕方がない。しかしながら、私が聞き及んだ範囲ではこの判こ代が実に一律、一定の額でもうすでに決まっておるというところに問題があるし、その会議費が何人槽かという槽が大きくなればなるほど高いという、額が多くなるということでもありますから、いささか問題があるんじゃないか。それなら、むしろやはり当初言いましたように、浄化槽は基準をクリアしているんだから、これはもうすんなり簡単な判こ代でよろしいのではなからうかと思うわけであります。

さらに、不透明なことになってくるのはこの判こ代だけではないんだ。これ判こ代というちょっと語弊がありますが、会議費ですか、あるいは許可代といいますか、そのほかにもいわゆる漁業補償的な面の金がかた取られるというちょっと語弊ございますが、プラスアルファのものが出るんだ。た

だいま聞きました判こ代のほかにそういうこともあるんですが、市御当局はそれをどのように聞いておりますか。

◎議長（福原 勤君） 民生部長。

◎民生部長（佐藤澄雄君） 全く承知してございません。

◎議長（福原 勤君） 日下君敏君。

◎18番（日下君敏君） 承知しておらないというなら私も調べた範囲で申し述べますと、某旅館が50万円をよこせ——よこせというちょっと語弊がありますが、50万だということで、これは少し高いということで館山保健所へ出かけていったらば、保健所がいやなるほどそれは高い、基準があるんだからあなたこれはつけなくてもよろしいんじゃないですかというような意見があったというふうに聞いています。それから、某業者はこれは5,000万とか3,000万とか相当単位が大きいんです。某社は3,000万を3カ年間にわたっていわゆる預託金として——これは漁業補償だろうと思うんですね、この性格は私もちょっとわかりませんが、簡単に聞いたものですから。3,000万を無利子で3年間預託する、3年たてばそれまたお返ししますよ。その間に漁業補償の問題が出るだろうと思うんです。プラスさっき言いましたように50万の許可代というか、判こ代を取られている——取られるという語弊がありますが、その協議費として提供いたしました。某社は1,500万をやはりこれは無利子で3年間預託させられた。これはちょっとおかしいという——某館山市ヘマンションを建てようという方が5,000万の無利子で預託を3年間やって、これは許可代が150万。これ私もしっかりした裏はとっていません。とっていませんが、そういう話がある。そういうことは聞いていませんか。

◎議長（福原 勤君） 民生部長。

◎民生部長（佐藤澄雄君） 全く聞いておりません。

◎議長（福原 勤君） 日下君敏君。

◎18番（日下君敏君） ですから、これだけの問題があるにもかかわらず聞いていないということになると大変な問題だと思うんです。ですから、私もたまたま質問しようということになっていろいろ聞いてみるとこういう話が出てくる。ですから、一、二私が聞いておりますけれども、一、二確かめ

ると確かに出しています。私の方も開発行為をやりますから、市の方に書類は出してありますから、確かそこに書類に載っているんじゃないですか、どうぞ見てください。ただ、名前を出されると、これはもうやはり今の段階ですと館山市の行政指導のもとに許可が出ないし、いろんなことになってくるんで、事業が遂行できないから、まあまあひとつ名前は御勘弁願いたい、これがほとんどですよ——ということになる。

ですから、私一面わからなくはありません、いわゆる漁業補償というのはこういうものが始まると必要だということでしょうから。しかしながら、どうも何か画一的な問題のようにとれるんです。さらに、館山市の方は全くもし関知していないとなると、これはちょっと行政指導したのは市ですから、63年5月6日に館山にある5つの漁業協同組合が先ほどの御答弁にあったようにひとつ協議していただきたいということで館山市は協議いたしなさいということになる。そして、ただいまお聞きしたように、これは強制ではないと言っていますが、1件もないわけですから事実上強制なんですね、この協定書を付けるということは。マンション業者あるいは建物業者はどうしてもこれはクリアしなきゃならぬ問題ですから当然これは積み上げてくる。世間では金を取られる方にどうしてもこれはお金持ちであろうが同情がいて、それを取る方にこれはひとつちょっと取り過ぎじゃないかというような場面が出ますんで、相当私がやるよと言い出してからもう三、四件の問い合わせが来るんですね、日下さんどこまでやるんですかと。どこまでやるんですかといっても、私の方は聞いた範囲内のことをやりましょうということにしてあるわけです。ですから、ひとつ魚が減ったからまさかこれによって補償しろということではないんだと思いますけれども、便乗商法的なものにもなるんじゃないか。ただ、私が思うに館山市が全く知らぬということは、いささか市の側にも問題があるんじゃないかと思ひまして、問題提起ということでこの問題は一応ここで終了させていただきますが、後日またいろいろ聞いた上でやらさせていただきますと思います。

時間もございませんので、次に薪能でございますが、薪能は私が先ほど言いましたように、やはりこれは100万、200万赤字を出しても館山市に行け

ば薪能が見られるんだ——観光協会長さんもいらっしゃるし、市長さんもありますから、やはりこの館山の田舎でもこれだけの香り高い芸術の能をやるんだなということになれば、1,200から600になってもこれ一生懸命やって、600人も来ればもう大変でございます。館山市の宣伝にもなりますから、ひとつこれは前向きなところで、お答えは要りませんが、御検討願いたいと思います。

茶室の問題も、オープンにしようという前提のもとに御協議願っているといますんで、ひとついい方向が出ますようにお願いいたします。ただ1点、その問題と違いますが、城山に上るについてあそこだらだらとずっと上りですから、いわゆる高齢者の方々に言わせるとどうも疲れてしまうというんです。ですから、その上り方について何かやはりこれも検討してもらいたいと思うんです。せっかく城があるから何かかご式の電気自動車とかそういうものもよかろうと思うんですが、そういうこともひとつ検討委員会の中で御検討願いたいと思うんですが、簡単で結構です、どうでしょうか。

◎議長（福原 勤君） 教育長。

◎教育長（福原 修君） お答えいたします。

茶室の利用につきましては、茶室利用取扱要領というのがございまして、その9条のその他、その2に、車両の乗り入れについては茶道具等の運搬や身体に障害がある人、高齢な人に限り認める。ただし、茶室前の駐車スペースの関係や運営管理上の問題から駐車できる車両は2台までとする、このような取扱要領でございますから、今の取扱要領を検討委員会の方々に説明をいたしまして、全部の項目にわたりまして御意見を承っております。第2回は6月の28日に検討委員会を開催する予定でございますから、そういう中に御質問のことにつきまして御提言申し上げましていろんな意見を拝聴したい、このように考えております。

以上でございます。

◎議長（福原 勤君） 日下君敏君。

◎18番（日下君敏君） そういう公園ですから、今言うようにかご型の電気自動車とかよろしいんじゃないかなと思うんですが、何か高齢者の方々が

あそこへ上っていくまで疲れてしまうというような声が多いものですから、よろしく御検討を願いたいと思います。

最後の文化ホールについて簡単に御質問いたしたいんですが、先ほど流山議員さんでありましたが、政治レベルの段階では既にこれは結論が出ているんだというような話があるんですが、そんなことはないんでしょう、どうですか。

◎議長（福原 勤君） 公室長。

◎市長公室長（佐藤輝雄君） 先ほど御答弁いたしましたように、一応県の段階におきましては現在設置場所、設置内容については一切示されておられませんし、県当局におきましても今後十分検討していくという段階であるというように聞いております。

◎議長（福原 勤君） 日下君敏君。

◎18番（日下君敏君） その答弁をしっかりうちの方も受けまして、巷間では政治レベルではもう決まった、市長と知事の間でもうやってしまったんで今さらどうなんだというような——これはしかしうわさでありますから、市御当局の立派な市長と立派な公室長でございますから、何とか南房総館山市の方へ文化ホールを持ってくるように頑張ってください。

終わります。

◎議長（福原 勤君） 以上で18番議員日下君敏君の質問を終わります。

次に、19番議員川名正二君。御登壇願います。

（19番議員川名正二君登壇）

◎19番（川名正二君） 私は、さきに通告してあります4点につき御質問を申し上げるものでございます。市当局の率直なる御答弁を御期待を申し上げ、質問に入ります。

第1点目は、館山駅西口土地区画整理事業のその後についてお伺いをしたいと存じます。私は、前期館山駅周辺整備調査特別委員会に所属しておりました関係で地元地権者の方と話し合う機会がございました。それなりに推移しているということでございますが、まず現況について御説明いただきたいと思うものでございます。

また、今後どのように推移をされてまいりますか、あわせて自由通路についてJRとの関係はどのようになっていますか、お伺いをしたいと思うものでございます。私は2点目に質問をさせていただきます東口地区の商業会の会員でもございます。そういった関係で西口整備に関しましては特に関心を持って見守っているところでございますので、よろしくお願いを申し上げたいと存じます。

2点目は、館山駅東口市街地再開発事業についてお伺いたします。駅東口は館山銀座商店街振興組合内のA街区 1.9ヘクタールを市街地再開発事業で整備しようとするものでございます。この事業は、昭和56年3月に市が作成をいたしました館山駅周辺市街地整備調査に基づきまして、昭和57年A調査、昭和61年3月にB調査を行いまして、地元地権者に対し組合施行で整備をしていくよう指導してきたものと思うのでございますが、その後五、六年経過をした現在全く進展していない現況を見て市当局はどのようにお考えになっておりますか、原因について当局の率直なる御答弁を賜りたいと思うものでございます。

過去何回か地権者への説明会、また話し合いの場を持ったことは承知をしておるところでございますが、最近一、二年間の間は話し合う機会もないようでございます。まして、A街区地権者間において考え方の相違なのか分裂しているような感もございます。このような状態ではこの先何年たっても再開発などは夢の夢でございます。館山駅前整備は館山市の表玄関として、また中心商業地域の活性化を図る重大な事業なのでございます。市当局は今まで市街地再開発事業は組合施行での指導、また地元地権者のやる気を待つ姿勢でおったというふうに思っておりますが、今後も今までどおりの指導でいくのか、組合施行を公共施行に切りかえる考えはないか、また整備手法の見直しをする考えはないか、この3点についてもお伺いいたしたいと思うのでございます。

私は今まで商店会及び各委員会で先進地の視察を行ってまいりましたが、その説明によりますと市街地の整備は公共施行でなければ絶対に無理であろうというふうに聞いております。当市では御一考の余地があろうと考えるも

のでございますが、いかがでございましょうか。

館山駅周辺の整備は東西の整合性を考えて進めていかなければならないと思うものでございます。西口にもエスシーの計画があるようでございますが、これに対しまして商工会議所もその支援を表明しております。A街区では、昭和56年にできました駅周辺市街地整備調査と相まって十字屋を核とする館山中央エスシーの3条申請が出され、昭和60年4月結審されておりますが、全く進展をしておりません。この結審に当たり、当時の商調協では館山駅周辺整備計画もあり、中心商店街の核として活性化を図る意味で4店舗の申請者の中では最大の平米数で結審をしたのでございます。核店舗進出のおくれの原因は何なのか、お伺いをしたいと思うものでございます。

A街区は、銀座振興組合地域14.9ヘクタールの一部なのでございます。今後他の街区の整備もしていかなければならないと思うものでございますが、振興組合といたしましてもいろいろ研究をしているところでございますが、最後に庄司市長の館山駅前整備と商業地域活性化施策に対する御所見を承りたいと思うものでございます。2点目についてはこれで終わります。

3点目に入ります。3点目の質問でございますが、相浜地先、平砂浦海岸の海水浴場開設についてお伺いをいたします。この海水浴場開設には地元各種団体より当議会に請願書が提出され、平成元年6月議会で採択され、市当局に対し早期開設を要望してありますことは御案内のとおりでございます。その後当局より海流調査等の報告がなされました。市は開設に向けどのような措置をとられておりますか、お伺いいたしたいと思うものでございます。

当地域は、リゾート法指定の中で太陽海岸平砂浦計画として自然と調和した質の高いリゾート地を目指しておることは御案内のとおりでございます。市指定の海水浴場の開設は地域の問題だけではなく館山市の大きな財産となるものでございますので、前向きに取り組んでいただきたいと思うものでございます。

また、関連してお伺いいたしますが、北条海岸海水浴場とあわせて当海域も海水汚染の問題が毎年話題になっておりました。海水浴場開設には汚染防止対策は不可欠なことであり、現在どのような措置をされておりますか、ま

た既設の海水浴場に対しどのような措置をされておりますか、お伺いいたしたいと思うわけでございます。そろそろこのシーズンに入ってます。また、つまらない報道がされませんよう当局の万全な対策を御期待を申し上げて質問を終わります。

4点目は、4月に改正されましたJRのダイヤに対し強く改善方を要望すべきと思いますが、当局の御所見を承りたいと思うところでございます。このたびのダイヤ改正は、大きく申し上げれば千葉県民無視、特に南房総地区住民は大変大きな不便を強いられた改正でございます。南房総はリゾート地として、観光地としてより多くの観光客誘致を図っていかなければならないとき、この改正を市当局はどのように受けとめておられますか。既に館山商工会議所は、地域の商工会とともにJR千葉支社及び千葉県知事あて陳情書を提出しております。市当局も公益的な考えで内房線、外房線、この沿線の各市町村と歩調を合わせて陳情すべきと思いますが、御所見を承りたいと思います。

以上、4点にわたり御質問を申し上げましたが、御答弁により再質問をさせていただきます。

◎議長（福原 勤君） 庄司市長。

（市長庄司 厚君登壇）

◎市長（庄司 厚君） ただいまの川名議員の御質問にお答え申し上げます。

大きな第1点目の小さな第1点、館山駅西口地区土地区画整理事業の現況はとの御質問でございますが、昭和63年度に事業計画の決定、平成元年度に土地区画整理審議会委員の選挙、換地設計を行いまして、さらに昨年の10月には換地案の供覧を行いました。現在は事業の進捗状況の説明、補償のための話し合いなど、権利者への戸別訪問を行っている段階でございます。本年度には一部仮換地の指定を行い、それに合わせまして建物移転、道路築造、整地等を行っていく予定でございます。

次に、小さな第2点目、自由通路についての御質問でございますが、昭和63年度に東日本旅客鉄道株式会社千葉支社に自由通路の概略設計を委託し、現在この設計により足場用地の位置等につきまして東日本旅客鉄道株式会社千葉支社及び国鉄清算事業団と協議を進めているところでございます。

次に、大きな第2のうち、小さな第1点目の東口再開発事業が事業化に至っていない大きな理由はとの御質問でございますが、1つには22メートル都市計画道路3・3・1号の変更の要望、2つには自分の土地に自分の建物という考えから再開発ビルに入る不安、3つには22メートル道路の代替地の問題、その他駐車場の問題、バイパス方面に商業集積が移ってしまうのではないかという不安などから、地元権利者の方々の合意形成が得られていないということが大きな理由でございます。

次に、小さな第2点目、今までと同じ指導をしていくのか、また手法の見直しはとの御質問でございますが、昭和62年に実施いたしました館山駅前地区市街地整備基本計画調査におきまして他の手法を検討いたしましたが、A街区につきましては駅前広場、都市計画道路3・3・1号等の公共施設整備計画がありますので、土地の高度利用を図りながら公共施設整備を図る市街地再開発事業が適しているという結論に達しております。また、館山駅東口D、E地区市街地再開発研究会が平成元年度に館山駅東口地区市街地再開発事業推進検討調査を行いましたところ、A街区の整備手法としては市街地再開発事業にゆだねることが最適であるということが確認されたと伺っております。

次に、小さな第3点目の組合施行を考えているようだが、市施行は考えられないかとの御質問でございますが、この地域は商業的な要素が高く、また自主的にまちづくりが行えるということで組合施行としたわけでございます。

次に、小さな第4点目の館山中央エスシーの出店がおくれている理由は何かとの御質問でございますが、市街地再開発事業計画区域内での出店計画のため、当該市街地再開発事業が事業化に至っていないためでございます。

次に、小さな第5点目の館山市の商店街の活性化に対する考え、これはどうかとの御質問でございますが、館山駅周辺の商店街の活性化につきましては、モデル商店街指定事業、商店街コミュニティモデル事業、商店街共同施設整備事業、大型店進出対策資金利子補給事業等助成をしてきたところでございます。今後も昭和62年度に実施いたしました館山駅前地区市街地整備基本計画調査をも踏まえまして、引き続き推進してまいりたいと考えております。

す。

次に、市全体の商店街の活性化ということでございますが、商業環境の改善、経営の近代化等のために、商店会連合会を通じまして各商店会に補助金を助成しているところでございます。今後もこれらのことによりましてなお一層の活性化を図っていきたいと考えております。

大きな第3の相浜地先、平砂浦海岸海水浴場開設についての御質問でございますが、当該海域が海水浴場に適しているかどうか確認するため、平成元年9月に新日本気象海洋株式会社に潮流等の調査委託をいたしました。その調査結果によりますと、当該海域は四季を通じて吹く西偏風によって離岸流が発生し、非常に危険とされております。御案内のように、海水浴場開設に当たっては県の海水浴場等安全指導要綱に基づいて実施されておまして、水浴、遊泳に生命の危険を伴う海域は開設できないことになっております。市といたしましては人命尊重、安全第一を考え、近くに開設する相浜海水浴場で対応してまいりたいと考えております。

次に、相浜海水浴場及び北条海水浴場の浄化対策についての御質問でございますが、相浜海水浴場につきましては平成2年3月、北条海水浴場につきましては平成元年5月に設置いたしました排水処理施設及び河川滅菌装置により水質の浄化に努めているところでございます。

次に、大きな第4のJRダイヤについての改善方の要望についての御質問でございますが、今回のダイヤ改正について内房線、外房線の特急電車がJR千葉駅を経由しないことになり、私たち沿線住民にとって大変不便になっております。御意見同感でございます。館山市といたしましては、県の市長会、市町村長会、また市町村会議、JR線複線化等促進期成同盟など、あらゆる機会をとらえ強くこの改善方を要望してきているところでございます。今後も続けてまいります。JRダイヤ改正につきましては、県南部住民の意向を踏まえまして議員の各位及び関係団体と十分な連携を図りつつJR東日本に対し強く要望活動を続けてまいりたいと考えています。

以上でございます。

◎議長（福原 勤君） 午前の会議はこれにて休憩とし、午後1時再開とい

たします。

午前 11 時 55 分 休憩

午後 1 時 02 分 再開

◎議長（福原 勤君） 午後の出席議員数26名、休憩前に引き続き会議を開きます。

川名正二君。

◎19番（川名正二君） ただいま御答弁をいただきまして大体わかりましたけれども、西口につきまして二、三点お伺いをしたいと思います。

西口につきましては、地元地権者のもとに順調に進んでいるというようなことで大変結構なことだと思いますけれども、これから換地の段階に入るわけでございます。大変大きな問題が出てくるというふうに考えますけれども、仮住居、仮店舗についてもどのように当局は対処されていきますか、まずこの1点をお伺いをいたします。

◎議長（福原 勤君） 建設部長。

◎建設部長（伊東 衛君） お答えします。

仮換地指定に伴います建物移転の際の仮住居、仮店舗については、余り遠くへ行きたくないという権利者方々の意向でございますので、建物移転を円滑に進めていくためにも現在区画整理施行地区内にあります市有の建物を仮住居等として使用するほか、今後それ以外にも地区内に仮住居等を確保していく予定でございます。

以上です。

◎議長（福原 勤君） 川名正二君。

◎19番（川名正二君） 過日取手市に視察をしてきたわけでございますけれども、取手市の場合は地権者の意向を十分取り入れてそれを行っているようでございますので、当市におかれましても十分地権者の声を聞いていただきたいというふうに要望しておきます。

それから、自由通路につきまして以前特別委員会等で御説明がありましたが、3カ所ぐらいの候補があるんだということでございました。もう既に決定をされておるのではないかなというふうに思われますけれども、いかがで

ございましょうか、お伺いしたいと思います。

◎議長（福原 勤君） 建設部長。

◎建設部長（伊東 衛君） お答えします。

自由通路の設置位置についての御質問でございますが、現在までＪＲ千葉支社との話し合いの中で計画しております設置位置は、駅前広場の南側、ロッセリア、それから駅のレンタカー付近からいわゆる線路側、西側でございますけれども、それに直角となる位置を現在のところ考えております。

以上です。

◎議長（福原 勤君） 川名正二君。

◎１９番（川名正二君） わかりました。大体そこでもって決定でしょう。

それから、西口のエスシーについてお伺いしたいんでございますけれども、既に３条申請が出されたと聞いておりますが、内容につきまして当局で知り得る範囲の中で結構でございますので、お聞かせをいただきたいと思いますので。

◎議長（福原 勤君） 経済部長。

◎経済部長（脇田元始君） お答えいたします。

まず、これは鉄筋コンクリート１０階建てでございます。建て坪が延べ５万５,８６７平方メートルでございまして、１階から５階までが商業店舗でございます。６階から１０階がホテル経営、こういうことになっております。店舗面積は合計で２万３,５８４平方メートルでございまして、十字屋が１万１,７０４平方メートル、それからおどやが３,９６０平方メートル、小売業者が７,９２０平方メートルでございます。なお、駐車場は約１,０００台できる見込みでございます。細部にわたりましては、現在検討中ということでございます。

以上でございます。

◎議長（福原 勤君） 川名正二君。

◎１９番（川名正二君） わかりました。この地区におきましては、地権者の皆さん方が新しいまちづくり委員会というものをこしらえまして勉強しているようでございますので、当局におかれましても大いに協力していただきたいというふうに要望しておきます。第１点の西口につきましては終わらせ

ていただきます。

2点目の東口整備について再度お伺いいたします。西口区画整理事業をお聞きいたしました理由は、西口は非常に順調に推移をしているということでございます。それに引きかえ東口につきましては全く進展していないのはどうしてかということでございますのでお伺いするわけでございますが、西口に関しましては地権者の御理解もありましょうけれども、私はこの整備手法が公共の事業として行っているということも大きな理由だというふうに思うわけでございます。そうした中で、東口市街地再開発事業を組合施行、西口を公共施行にしたこの理由をお聞かせ願います。

◎議長（福原 勤君） 建設部長。

◎建設部長（伊東 衛君） 西口地区の区画整理事業を公共、また東と西の違いはどうかということの御質問のようでございますけれども、西口の土地区画整理事業は換地手法による土地に返還されることになり、その中で交通広場、都市計画道路、公園等の基盤整備を行うものであり、公共施行——いわゆる市の施行としたわけでございます。区画整理事業においては、建物の建築、利用方法については権利者の方々の意向にゆだねられることとなります。これに対しまして東口の再開発事業は、再開発ビルを建設した上での権利返還手法により、土地の、あるいは建物が区分所有される再開発ビルの一部である床に返還されることとなります。東口の再開発ビルについては当然商業的用途のビルとなるわけでございます。このような商業開発的な要素が高い再開発ビルを建設するに当たりまして、権利者でございます商業者が自主的に行えるという意味から組合施行としたわけでございます。

以上です。

◎議長（福原 勤君） 川名正二君。

◎19番（川名正二君） 次に移ります。進展しない原因については御答弁でありましたけれども、まさにそのとおりだというふうに私は思います。わかっているものにつきましては一つ一つ解決をしていかなければいけないというふうに考えるわけでございますけれども、どうしても組合施行ということになりますと地権者同士利害関係もございますので、話し合い、調整もう

大変難しいというふうに思うわけでございます。そこで、中立的な立場で行政の積極的な指導が必要と思いますが、どうお考えになっておりますか、今後どのように対応してまいりますか、お伺いします。

◎議長（福原 勤君） 建設部長。

◎建設部長（伊東 衛君） お答えします。

行政の指導が必要ということだと思いますけれども、市は今後ともまちづくりに対して権利者の方々の御理解、御協力を得るため積極的に話し合いを進めて、そして安房の中心の商業都市、リゾートタウン館山の中心市街地でございますので、それにふさわしい地区として整備を推進してまいりたいと思っております。

以上でございます。

◎議長（福原 勤君） 川名正二君。

◎19番（川名正二君） 積極的に話し合いをしていくということでございますのでぜひそうしていただきたいというふうに思いますが、反対をしている地権者、この方たちのお話を聞きますと、ただ単に反対をしているんじゃないんだ、やはり先ほど御答弁の中にありましたいろいろな不安な問題、そういった問題があるのではということもあるわけでございますので、十分な話し合い、そういったものをやっていただきたいというふうに考えます。

それから、整備手法の見直しについては見直すことはないというような先ほどの御答弁でありました。これはまたよその例を出して大変恐縮でありますけれども、取手市の場合は市の計画でありました市街地再開発事業、この整備手法を地権者に提示をしたところ、全くもって反対をされてしまったわけでございます。その理由は、先ほど御答弁の中にありましたように、市街地再開発事業は高度化利用でございまして、大きな建物の中に入る不安、また共同店舗のために各個店の自由の束縛、自分の土地に自分の建物を持ちたい、こういうことがやっぱり反対の大きな理由であったわけでございます。そこで、取手市の場合はその地権者といろいろ協議をいたしまして、その結果市街地再開発事業で進めておった市の計画をその話し合いの中で土地区画整理事業という形で行うようになって現在執行中でございます。そういった

ことで取手市は変更しているわけでございます。当市も真剣にこの東口の整備を考えていくなれば地権者と手法を含めての話し合いを十分持つべきだと思いますが、どうでしょうか、再度お伺い申し上げます。

◎議長（福原 勤君） 建設部長。

◎建設部長（伊東 衛君） お答えします。

館山駅前地区の市街地整備基本計画調査を踏まえながら、今後とも権利者の方々と話し合いを進めてまいりたいと考えております。過去のわだかまりもあろうかと思えますけれども、駅前商店街を取り巻く情勢は非常に厳しいものがあると思えます。そんなことで、地権者等々とじっくり話し合いすることが近道だと私は思っております。

以上です。

◎議長（福原 勤君） 川名正二君。

◎19番（川名正二君） ただいまの御答弁で結構だと思いますが、市街地整備基本計画の調査、これはあくまでもA街区を市街地再開発事業をやるための調査ではなかったわけでございますので、私はそう理解しております。したがって、この基本計画を踏まえて話し合いをまたしていくということでございますので、余り市街地再開発事業というものにこだわらずにもう少し柔軟な姿勢を持って地権者との話し合いに臨んでいただければというように思うわけでございます。

それから、市街地の整備手法の一つといたしまして、市街地再開発事業の後でできました手法で沿道区画整理型街路事業というものができました。その手法について御説明願います。

◎議長（福原 勤君） 建設部長。

◎建設部長（伊東 衛君） お答えします。

たしかこの事業は昭和61年に銀座振興会がいろいろ手法を考える中で私も記憶がございますけれども、この沿道区画整理型が出てきたよ、これをひとつ研究してみようじゃないかということでたしか研究した事業だと記憶しておりますけれども、説明いたします。沿道市街地の機能保全と健全な利用、活性化の促進を図るため、土地区画整理手法の活用により幹線街路と沿道市

街地を一体的に整備することを目的として、権利者からの土地の提供——いわゆる減歩でございます。さまざまな土地、不整形な画地、いろいろでくしゃくした土地を理想的な形状に変えることによって道路用地をまず確保していく手法だと聞いております。したがって、都市計画道路を含んだ沿道1宅地乃至は2宅地程度の狭い区域で施行されるもののようにございます。そのために、場所によっては非常に減歩率が高くなることがございます。また、区画整理事業にあっては面的な広がりを持った区域で施行されるものであるため、5ヘクタール未満の地区については補助金の導入ができないのに対しまして、この沿道区画整理型街路事業については5ヘクタール未満の地区を対象として補助金を導入できるという利点がございます。

以上でございます。

◎議長（福原 勤君） 川名正二君。

◎19番（川名正二君） ただいまの御説明のとおりだと私も思います。そういうところが、市街地再開発事業それはどうしても嫌だと言っているわけでございます。すると、それ以外の手法でやろうとしたときに、当時区画整理事業では地域が狭いためにできないわけでございます。しかし、その後こういった沿区というふうに言葉を使わせていただきますけれども、この整備手法ができてから私どもの商店街も振興組合地域B、C街区約4.6ヘクタールあるわけでございますけれども、その調査をしていただきました。その調査結果を見ますと、市街地の狭い地域の整備に関しましてはこの沿区が一番いいのではないかなというような結論が出ております。しかし、その施行に当たりましてはやはり組合施行ではだめですよ、公共施行でなければできないんだというおまけまでついておりますけれども、狭い地域に関しましては沿区でやるのが一番いいんだ。そういうことになりますと、現在の市街地再開発事業で進めておりますA街区の人たち、これは大きな建物の中へ入るのが不安である、自分の土地に自分の建物を建てたいということもこの沿区であれば何とかクリアできるのではないかなというふうに私は思います。そういったことで新しい手法もできてきたことでございますので、御当局といたしましても御一考を願いたいというふうに要望をいたしておきます。

それから、核店舗のおくれにつきましては、再開発事業が事業化に至っていないためにおくれているんだというような御答弁でございました。この館山中央エスシーの場合、日東交通さんと十字屋さん、この2つの大きな事業体はA街区の中にあって最大の地権者でございます。再開発に関係なく自分の敷地内に計画をされましたビル、その建物を建てることは十分できるわけでございます。そういったことを考えますと、ただ再開発がおくれているからできないということだけじゃなくて、ほかの理由があるのではないかなというふうに思うわけでございますけれども、例えば南房タクシーの前から農協に向かう道路の北側、これは住居地域に指定をされております。住居地域に与える影響——これは大変厳しい規制の中に置かれておりますので、そういったためにそれこそ大きな建物を建てる場合、日照権でありますとか、電波障害だとか、風害だとかそれ以上のいろんな弊害が出てくる。そういったことでできないのではないかなというふうに思われるわけでございます。

また、あわせて現在既に商業地域と同じような住居地域に対し、当局は見直しをする考えはないかどうか、それをお伺いしたいと思うんでございます。

また、昭和56年度にできました先ほど申し上げました館山駅周辺市街地整備調査をしておりますが、はっきりした基本計画、マスタープランがないというふうに私は思っております。商業地域全体のマスタープランをつくってもらえませんか、あわせてお伺いを申し上げます。

◎議長（福原 勤君） 建設部長。

◎建設部長（伊東 衛君） お答えします。

東口の再開発事業がおくれている理由としては、北側あるいは西側の用途地域が住居地域となっているそこら辺も問題ではないかということの御質問のようでございますけれども、用途地域の変更は都市全体が一体として機能し得るよう都市計画道路等の都市施設の整備や都市利用形態及び市街地再開発事業等の面的整備計画を総合的に勘案して変更をしようとするに十分な要素ができませんと、その段階で変更を行うべきものであります。御指摘の北側の用途地域の変更につきましては、変更対象地域の整備計画やあるいは2番目として市街地の再開発事業の実効性、いわゆる南側の方のものでござい

ます。それから、3番として館山市における商業活動を考慮した商業地域の必要面積等を十分考えていかねばならないと思います。したがって、現在策定しております都市マスタープランを踏まえまして——これ来年度までかかるわけでございますけれども、その再開発の計画の熟度、あるいは変更対象地域の整備計画等を考慮し、必要に応じて用途地域の変更を検討していかなければならないと思います。そのときにこの地域に対しての提言があらうかと思しますので、そのときにこの結論を出したいと思います。

なお、日照であるとか、電波障害、風害等の理由のみで用途地域の変更するということはこれは歯どめがきかなくなりますので、それだけで変更ということになりますとその商業地域がどんどん膨れてきますので、変更できないと思います。

また、最後のB、C街区等のものについては、この都市マスタープランの中にそういった整備手法も考えたいと思しますので、いましばらくお待ちしていただきたいと思います。

以上でございます。

◎議長（福原 勤君） 川名正二君。

◎19番（川名正二君） よくわかりました。ありがとうございます。

関連してあと一つお伺いします。館山市では現在平成7年度に公共下水道の一部供用を目指しているというように聞いておりますが、当然大口径の管を埋設しなければならないわけでございます。その工事工程を考えたとき工費は無論でございますけれども、特に狭い銀座通り、これを長期にわたって掘り起こすということもこれは大変なことでございます。今たまたま懸案の銀座通りの拡幅が急務となったときに初歩的に拡幅事業と公共下水道との複合を考えなければいけないというふうに考えるわけでございますけれども、これを一緒に実施すれば工費も資金も、そして銀座の環境整備もすべて一度に済むのではないかなというふうに考えるわけでございますけれども、市当局の御見解をお伺いをしたいというふうに思います。

◎議長（福原 勤君） 建設部長。

◎建設部長（伊東 衛君） 川名議員さんの御提案それごもっともでございます。

ます。下水道事業と街路事業との同時施工ということは経費面からも当然考えなきゃならない、またそうすべきだと思いますけれども、一応そんなことでこれはそうしなければならないと思っております。

また、まことに申しわけないんですけれども、平成7年度じゃなくて平成11年度ということで考えておりますので、よろしくお願いいたします。

◎議長（福原 勤君） 川名正二君。

◎19番（川名正二君） 間違えまして申しわけございません。

最後に要望でございますけれども、A街区の整備につきましては館山市中心商店街地域14.9ヘクタールの一部にすぎないわけでございます、幸いにして館山市の長期ビジョンである館山市基本計画の5年の後半に入るところでございます。これは改めて商店街の整備の基本計画と解釈しております。当局におかれましてもマスタープランのない市街地再開発事業なんていうことは絶対あり得ないわけでございますので、しっかりとした道路計画を含めた基本計画を作成していただきたいというふうに強く要望をいたしておきます。

3点目でございますが、この海水浴場の開設、期待をしておりましたが、大変残念な御答弁でございました。この地域の方たちも全くがっかりするんじゃないかなというふうに思うわけでございますが、この件はこの議会で開設に対する請願を採択されております。ということは、この開設は一部の地域の人たちだけではなくて館山市民の要望でもあろうというふうに思うわけでございます。そこで、お伺いをいたしたいわけでございますけれども、全域の開設は無理といたしましても、部分開設についてはどうか。また、現在の技術力をもってすれば何とか解決されるんじゃないかなというふうに思いますが、いかがでしょうか、お伺い申し上げます。

◎議長（福原 勤君） 経済部長。

◎経済部長（脇田元始君） お答えいたします。

先ほど西偏風による離岸流の発生ということで市長から御答弁申し上げましたんですが、確かに海水浴場としての利用可能はどうかというふうなことでの調査では、巴川から200メートルぐらいですか、佐野川に向けての巴川

から 200メートルぐらいは岩場になります。それから先が海水浴場として使えないことはないというふうな面もあります。しかしながら、これはただし書きがありまして、平穏時——いわゆる本当に波の静かな状態であれば、それも泳ぎの達者な人というふうな、そんなふうな注釈がついておりまして、海水浴場開設となりますとやはり女性もあり、子供さんもありというふうな状況で、先ほどの風の状況によって非常に海流が強いというふうな危険度——現在あそこ防潮堤まで満潮時は水が参ります。あのテトラポットがあそこ 150か 180ぐらい防潮堤から海側にちょうど間に入れてございますが、現在そういうふうに満潮時にはそこまで参ります。したがいまして、現状の中ではちょっと技術的にも困難だというふうに考えておりますので、先ほど市長答弁申し上げましたように隣の相浜海水浴場、そこは開設しておりますので、そちらを御利用いただくということで御答弁にかえさせていただきます。

以上でございます。

◎議長（福原 勤君） 川名正二君。

◎19番（川名正二君） その後にお伺いしたことで、毎年環境庁で海域、河川の水質調査というものが行われておりますけれども、この調査はいつごろ、もうそろそろ——終わったんですか。また、河川等の消毒について何か所ぐらいでもってやっておられるのか、お聞かせ願いたいと思うんです。

◎議長（福原 勤君） 経済部長。

◎経済部長（脇田元始君） 最初の1点の検査の方でございますが、先般保健所において行われまして、まだ実際に書類の方はこちらの方へ参っておりません。しかしながら、今年は大丈夫だというふうなことでもって伺っております。

それから、排水関係でございますが、現在巴川、それと汐入川、そのほかにどんどん川、この3カ所でもってやっております。

以上でございます。

◎議長（福原 勤君） 以上で19番議員川名正二君の質問を終わります。

次に、21番議員神田守隆君。御登壇願います。

（21番議員神田守隆君登壇）

◎21番（神田守隆君） 庄司市長が昨年市長に就任して以来はや半年が過ぎました。この間、新年度予算の編成、また基本計画の策定など大変に御苦労さまでございました。いよいよ庄司市政の真価が問われるのはこれからかと存じます。私は4月の市議会議員選挙に当たり改めてたくさんの市民の方と語り合いましたが、この中で市政についての大変に厳しいたくさんの注文を承ってまいりました。こうした市民の声を我が声として市議会の場を通じて提案し、忌憚のない御意見を申し述べることになりますが、どうか市長におかれましても腹藏のない率直なる御意見を賜りたいと存じます。どうぞよろしく願いをいたします。

それでは、既に通告をいたしました5点について御質問をいたします。まず、第1点は高過ぎる国保税の引き下げについてでございます。市長はこの6月市議会に今年度の国保税条例についての御提案をしてまいりましたが、限度額を42万円から44万円の引き上げなどを除き、基本的には税率は変更しないというものでございました。国保税は大変に高い、安くしてもらいたいという声は大変に切実なものがあります。昨年度の国保会計の決算見込みでは2億3,000万円もの大幅黒字でございます。医療費等が思ったほどかからなかったわけで、結果的に国保税を取り過ぎたこととなります。この分は本来国保加入者に返すのが当然で、本年度の減税に充てるべきであります。剰余金2億3,000万円のうち、既に本年度当初予算に計上されている分などを除いてもなお1億円余の剰余金がありますが、これを減税に充てれば国保加入世帯1万世帯でありますから、1世帯当たり平均1万円の減税が可能であります。しかし、市は減税は行わず、既に基金には7,300万円も積み立ててあるにもかかわらず、さらに9,800万円を基金に積み立てるとしています。あすのために基金に積み立てということを一般的に否定するものではありません。しかし、この館山の国保の現状から今必要なのは果たして積み立てをすることでありましょうか。国保税は既に国保加入市民の負担の限界を超えています。現に国保の収納率が制裁措置などを実施しても他の税目に比較して5ポイントも低くなっていることから明らかであります。今必要なことは、あすのための積み立てではなく、きょうのための減税を実施することで

あることは明らかであります。お隣の白浜町でも昨年度国保料を引き下げております。そこで、市長の国保税についての所見をお尋ねをいたします。現行の国保税は高過ぎるとの意見について市長はどのようにお考えでありますか、所見をお聞かせください。

次に、国保の事務費の国保加入者負担をなくすべきと思うがどうかという点についてでございます。国保は国の委任事務であり、その事務費は全額国の負担が建前であります。しかし、実際にはいわゆる超過負担の問題があり、結果的に国保の加入者が医療費ばかりかこれらの費用も負担しております。これらの費用については市が一般会計から助成をして負担をすべきではないかと思うのでありますが、いかがお考えでありますか。

次に、大きな第2点、リゾート開発についてでございます。いわゆるリゾート開発も、館山レインボータウン計画に見られるように投機的な一時のブームは下火となりつつあります。当然のことであり、結構なことでもあります。本来リゾート産業は莫大な資金を必要とし、20年、30年の長期間で資金の回収を図るいわば重化学産業のような装置型の産業であると言われ、また同時に国民の趣味や嗜好など大変に移ろいやすいものが対象であり、的確にその動向を把握することは大変に難しいと言われます。失敗したときの負担は大変なものがあり、慎重な対応が必要とされます。文字どおり本物を見分ける力が試されていると言えます。こうした中で、ゴルフ場開発は会員権販売という手法で短期に資金が回収できるため大変にうまみのある投資とされます。ゴルフ場開発は、地域の将来を託すいわゆるリゾート産業とは異質なものであると存じます。そこで、お尋ねをいたします。市はこれまでゴルフ場単体での開発は認めないとのことでありました。太陽海岸平砂浦計画についてゴルフ場と海の開発を柱とする計画でございましたが、海の開発がなければ結果的にゴルフ場が中心の開発ということになろうかと思います。それは市として認めない、こういうことで理解をしてよろしいのかどうか、お聞かせいただきたいと思います。

リゾートマンションについてお尋ねをいたします。この7月から県の建築基準法施行条例が実施となります。市はこれまでリゾートマンション規制の

指導要綱の改正を一刻も早く行うということをこの議会でも再三再四言明を
してまいりました。しかし、残念ながらいまだに実施されておりません。私
の住む那古地区ではこのリゾートマンション建設が周辺住民の生活環境を脅
かすということが大きな問題となってまいりましたが、同様の問題は市内の
各地で起こり得ることでございます。市はどのような改正をいつから実施し
ようとしているんですか、御説明をいただきたいと思います。

次に、大きな第3点、文化ホール建設問題についてお尋ねをいたします。
既に私の質問に先立って質問がされました。質問が重複することになります
が、それだけこの問題に寄せる市民の願いが強いことを示しているのではな
いかと思いますので、よろしく願いをいたします。館山市を初めとした住
民の運動で県立文化ホール建設の機運を高め、誘致を実現しようとの趣旨で
住民の団体が結成され、その運動が始まりました。そこで、お尋ねをいたし
ます。市はこの県立文化ホール建設の見通しについてどのように考えており
ますか、お聞かせをいただきたいと思います。

次に、当面は現在の施設を活用してさまざまな文化事業に取り組むことにな
りますが、現在の市民センターの照明について例えば写真展などの際大変
暗いのでありますが、改善できないものでありましょくか、お聞かせをいた
だきたいと思います。

次に、大きな第4点、蟹田川の改修の問題についてお聞かせをいただきたい
と思います。蟹田川の豊津橋から下流の部分について川が埋め立てられ暗
渠になっておりますが、大変に不自然であります。上流から流れてきた川が
急激に狭い暗渠になるため、少しの雨でも水害の危険があります。河川は公
共物であり、特別な理由なしにこのようなことは到底認められるものではあ
りません。なぜどういふいきさつでこのようなことが行われたのでありまし
ょうか。また、その責任はだれにあるのでありますか。いずれにしても、こ
のために水害に遭う危険に現実には周辺の住民がさらされています。蟹田川の
護岸が崩れ、宅地を浸食し、川との境界石がなくなってしまったとのこと
も聞きます。一刻も早くこの暗渠を取り払い原状回復を図る必要があると思
うのでありますが、いかがお考えですか。また、周辺の水害の被害については

だれがどのように責任を負うのでありましょうか、お聞かせをいただきたいと思います。

次に、幼稚園の30人学級についてお尋ねをいたします。平成3年度からの5年間の計画である館山市基本計画では、幼稚園の30人学級の実施について検討するとしています。また、3月市議会の私の質問に対して、教育長は今後の幼児数の推移を見ながら具体的に検討しつつあるということでございました。市立幼稚園入園児童数を的確に把握することは大変難しい面もあらうかと思いますが、例えば住民基本台帳人口として市の発行している福祉の現況によれば児童数について平成3年4月現在の5歳児は573人、4歳児は503人、3歳児は554人、2歳児は467人、1歳児は456人、ゼロ歳児は464人としております。この数字からも判断できるとおり、明らかに平成5年度に入園する児童から現在より2割近く少なくなり、その後その数は回復をしません。こうしたことから私は遅くとも平成5年度の入園児童から30人学級に踏み出すことが現実性のあるものと思うのでありますが、いかがお考えでありますか、お聞かせをいただきたいと思います。

以上、御答弁によりまして再質問をさせていただきます。

◎議長（福原 勤君） 庄司市長。

（市長庄司 厚君登壇）

◎市長（庄司 厚君） ただいまの神田議員の御質問にお答えいたします。

大きな第1、高過ぎる国保税の引き下げについての小さな第1点目、国保税が高いとの御指摘でございますが、国民健康保険税はその形式は税であるものの、実質は医療費総額に左右される保険料であることは御承知のとおりでございます。当市のように高齢化が進み、医療を受ける年齢層の割合が高くなりますと必然的に医療費の総額がふえ、国保税に大きく影響しているところでございます。直近の決算である平成元年度におきまして、館山市の1世帯当たり国保税額は安房郡市では最も低くなっているものの、県下28市におきましては10番目の状況でございます。国保税につきましては、被用者保険と比較いたしますと高いと認識しております。国民健康保険制度が数々の問題を抱えていることは御承知のとおりでございます。この問題につきまし

ては館山市だけの問題ではございません。根本的には医療保険制度全般にわたる解決策が必要であると考えておりますので、今後とも全国市長会等を通じ制度の改善等強く国に働きかけてまいりたいと考えております。

次に、小さな第2点目、事務費の国保加入者負担はなくすべきであると思うがどうかとの御質問でございますが、国保会計は法令で定められた特別会計でありまして、また国保事務は団体委任事務でございまして、その事務の執行に要する費用につきましては一定の基準により国が負担することとなっております。事務費負担金につきましては、国におきまして大蔵、自治、厚生3省による合同の事務費実態調査の結果を踏まえ、平成2年度には基準額を増額したところでございます。当市といたしましては、事務の効率化等、経費の節減に努めているところでございますが、国に対しても保険者の実情に即した事務費負担の見直し等を働きかけてまいりたいと考えております。

大きな第2のリゾート開発の問題でございます。小さな第1点目、太陽海岸平砂浦計画の御質問でございますが、現在海浜部の開発につきましては実現化に向けて関係機関等と協議、検討を重ねているところでございます。さきの議会でも申し上げましたとおり、ゴルフ場単体の開発を進めるのではなくて地域の振興に寄与する複合開発を推進しているところでございます。

次に、小さな第2点目、リゾートマンションの規制強化のため指導要綱の改定についての御質問でございますが、このほど千葉県においてリゾート建築対策として一定規模以上の建築物について、安全上、防火上及び衛生上必要な新たな基準を設定し、建築基準法施行条例の改正を行い、7月1日から施行されることになりました。当市といたしましても、現行のリゾートマンションの建設に関する指導要綱の対象建築物について県条例との整合を図り対応をしていく方針でございます。

次に、大きな第3点目、文化ホール建設問題でございます。その第1点、県立文化ホールの建設見通しについての御質問につきましては、流山議員、日下議員にお答えしたとおりでございます。館山市への誘致実現に向け引き続き努力してまいる所存でございますので、議員各位の御理解と御協力をお願いいたします。

次に、小さな第2点目、市民センターの改善についてはどのように考えているかとの御質問でございますが、市民センターにつきましては従来から機能維持及び利用者への便宜を図るということで施設の改修、整備を行ってきたところでございますが、御指摘の照明の問題につきましては今後調査、検討してまいる所存でございます。

次に、大きな第4の蟹田川における暗渠工事につきましては、昭和45年申請者からの公共用財産使用並びに土木工事施行許可申請に基づきまして千葉県が許可をし施行されたものでございます。その後流水が阻害される等の理由により占用期間更新の許可が得られず不法占用物件となり、千葉県知事及び館山土木事務所長から再三にわたり撤去並びに原状回復命令がなされました。しかし、これらの行為は履行されないまま昭和51年千葉県において代執行が行われ、盛り土の開削による暫定的な措置により現在に至っております。御指摘の点につきましては、水害防止の見地から早急な処置をとるよう館山土木事務所へ要請しているところでございます。

大きな第5の幼稚園30人学級の問題でございますが、この問題につきましては教育長から答弁いたします。

以上でございます。

◎議長（福原 勤君） 教育長。

（教育長福原 修君登壇）

◎教育長（福原 修君） 30人学級の問題でございますけれども、現在のところ1学級の幼児数は40人以下が原則となっておりますが、館山市では近隣市町村に先駆けまして1学級35人を基準として行っております。30人学級につきましては幼児数の推移等検討を加えておる段階でございますけれども、いずれは実施に踏み切るべきだと考えております。

以上です。

◎議長（福原 勤君） 神田守隆君。

◎21番（神田守隆君） 国保についてお尋ねをいたします。

被用者保険に比べて約2倍という水準になろうかと思えますから、市長さんも高いということについては御存じのとおりかと思うんです。収納率も大

変他に比べて低い。非常に住民にとっては重税感、これが最も激しいのがこの国保税かと思うんです。私はそうした中で、この国保が2億3,000万円の大幅な黒字が決算の見込みで出たというのは大変大きな問題だと思うんです。そこでお尋ねするわけではありますが、平成2年度の決算の見込みで保険給付費、これは幾らになりましたか。

◎議長（福原 勤君） 民生部長。

◎民生部長（佐藤澄雄君） 平成2年度の決算におきまして保険給付費は支出済額で22億4,878万2,000円でございます。

◎議長（福原 勤君） 神田守隆君。

◎21番（神田守隆君） そういたしますと、大体予算で見積もっている金額が23億4,700万、ちょうど予算見積もりを約1億円実際には保険給付費がかからなかった、こういうことで理解してよろしいですか。

◎議長（福原 勤君） 民生部長。

◎民生部長（佐藤澄雄君） そのとおりです。

◎議長（福原 勤君） 神田守隆君。

◎21番（神田守隆君） それでお尋ねするんでありますけども、平成3年度の当初予算では23億7,900万、こういう数字を保険給付費として計上しております。この数字は今回の平成2年度の決算の見込みの額1億円も少なかったわけです。その前の年、平成2年度は22億2,900万ですから、こういう過去3年間の数字を見てみた場合にとても当初予算で見込んだ23億7,900万というような保険給付費というのは明らかに過大な見積もりではないかと思うんです。大体かかりもしない——いやかかるかもしれないです。風邪引くと一風邪1億とも言うからわからないという意見もあるんでしょうけれども、しかし過去3年間の推移から見ればこの23億7,900万円という金額の計上はどうしたものか。この金額の計上を前提にして新年度の国保税の算定の基礎になっておるわけです。本当はもっと1億円少なく見積もるべきでないか。これだけかかるだろうと高く見積もれば見積もるほど国保税は高くなるんですよ、これは。当たり前の話です。平成2年度はそれでやったら2億3,000万も余ってしまったんです。また同じことをやるのか。平成元年度では1億

4,000万余りました。2年度では2億3,000万。こういう非常に過大な、安全率を余計見るといいますか、こういうもとで高い国保税になっているわけなんです。ここにメスを入れる必要があるんじゃないか。なぜ今年度はこの数字、23億7,900万、この見積もりの数字で本算定をなさらずに3月で出した数字をそのまま通そうとなさるんですか。

◎議長（福原 勤君） 民生部長。

◎民生部長（佐藤澄雄君） ことしの予算を組む場合には過去3カ年の平均の伸び率を見ながらつくっていくわけでございます。ただ、平成2年度の決算の中で結果として出てまいりましたのが、いわゆる医療費が少なかった、この理由を考えた場合に、館山市では特殊な事情——特にことしは、この冬は暖冬でございまして、医療費が非常に前年対比をした場合にもマイナスの状況になっておるといようなことでございました。そういう特殊な事情でございまして、平成3年度の当初予算を組む場合には3カ年の平均の5.82%、これを6%で上げて組んだわけでございますけれども、実際に2年度の決算がこういうふうにたまたまなったということでございます。

◎議長（福原 勤君） 神田守隆君。

◎21番（神田守隆君） それはいいんじゃないですか。たまたまだと言いますけれども、毎年、毎年同じことやっているわけです、やり方は。けれども、6月のときには3月までの数字、この決算の数字を踏まえて本算定をやるわけです。確かに平成2年度は4月から9月、10月までは前年度よりも多かった。これ議会でも何回か答弁しているからわかっています。しかし、それ以降はむしろ前年度より少なくなっている。だから、最終的に結論を見たら思ったほどかからなかったんです。だから、当初予算を組んだときは状況が変わったんです。そういうことがあるから本算定をやろうというのが——6月の議会には本算定をやった数字で提案もし、新年度の国保税を考えようというのが今までのやり方です。その手順を踏み外してやらなかったというのは納得できないんです。特殊な事情だというのならそれこそ特殊な事情なんです。いかがですか。

◎議長（福原 勤君） 民生部長。

◎民生部長（佐藤澄雄君） 通常では本算定の場合に医療費関係すべて含みまして補正をお願いしていたわけですが、今年度につきましてはいわゆるマイナスの見込みといたしますか、いわゆる緊急的な事態でなくて、通常でやはりこの平成3年度見込んだ場合にも当初の予算で見積もった費用がかかるであろうということで今回は補正についてはお願いをしなかった、こういうわけでございます。

◎議長（福原 勤君） 神田守隆君。

◎21番（神田守隆君） 本当ですか、本当にかかりますか。いいですか、62年度の決算が20億 8,200万です。63年度が20億 2,800万、そして元年度が22億 2,900万、2年度は22億 4,800万と来ているんです。今度の当初予算が23億 7,900万。去年、2年度の決算の数字よりも1億 3,000万ざっとかかりますよ——本当にかかりますか。そのかかる理由、なぜそれだけかかるのか、そういう見込みが確実なものだということを御説明いただきたいと思うんです。もしこれがなかったとしたら、それだけまた皆さんに余計な負担、1億円市民の皆さんに余計な負担をかけたということになるわけですから大変な問題だろうと思うんです。本当でしたら平成2年度で2億 3,000万円も余ったということ自身大問題ですよ、それだけ税金取ったんですから。また同じことやろうというんですか。

◎議長（福原 勤君） 民生部長。

◎民生部長（佐藤澄雄君） 平成3年度の国保の保険給付費まだ始まったばかりでございます。そういうことで、この23億 7,900万という当初予算に上げた数字、これが年度末へ行って確にかかるとどうか、これははっきりしたことは当然言えないわけですが、これから館山市の国保も国の状況等を踏まえて医療費の改定等々予想される部分も大変多うございます。そういうことでこの当初予算に対する保険給付費は23億 7,900万の当初予算のとおりにしたわけでございます。

以上です。

◎議長（福原 勤君） 神田守隆君。

◎21番（神田守隆君） 税金をたくさん取ろうという話ですからこれは大

変シビアな問題なんです。ですから、これは過大な負担になってはならない。したがって、過去3年間の数字、この具体的な数字を踏まえて今年度の推計を行うというのが今までやってきたわけです。過去3年間の数字から見れば明らかにこれは1億3,000万余計にかかる。これについてどうしてかかるのか、例えば医療費がうんと改定予定ですとか、何らかの事情があるならばそれはやむを得ないという説明をしなきゃならないでしょう。しかし、わからないです。風邪がはやるかもしれません——風邪がはやれば一風邪1億円だと言います。そうだから風邪がはやるかはやらないかということなんですけど、そういうことでやっていったら際限ないわけです。だから、過去3カ年間の実績がどうか、それを踏まえて計算すべきだとなっているわけです。過去3カ年のやればこんな数字にならないでしょう。あと1億円少なくしてくださいよ、過去3年間の数字を踏まえてこの見積もりの価格を。いかがですか。

◎議長（福原 勤君） 民生部長。

◎民生部長（佐藤澄雄君） 過去3年間の実績、これを当初予算のときに計上した理由の中に、対63年度これはマイナスになっていますが、前年対比マイナスになっていますが、元年度22億2,900万円、これと63年度の保険給付費の20億2,800万円、この伸び率109.86%、平成2年度22億4,800万円、この元年度の対比100.88%、そしてこの数字で平成3年度の予算105.82%を算出したわけでございます。

◎議長（福原 勤君） 神田守隆君。

◎21番（神田守隆君） 当初予算のときの数字はそれはそれでやったんでしょう。これは実績が出てからやったんだ——またやる必要があるんです。そのことを言っているんで、それじゃ説明になりません。結構です、もうこれ以上お話ししても進めないと思いますので。

そこで、国保の算定上、国保税の前提になる医療費の総額のとらえ方が極めて過大にされているのではないかということについて改めて審査をしたいと思います。

それから、次にこうした国保、安全弁がもう一つあるわけです。過大に見

積もった上、さらにことし2億3,000万の大幅黒字の中で9,800万円をまた基金に積み立てる。基金に積み立てもいいです。際限なくどんどん積み立てていくというのはどういうものですか。基金の積み立てがどんどん、どんどんされていく。確かに風邪がはやれば一風邪1億だというから足りなくなる時があるから、そういうときのためにこういうこともある程度必要だろうということは理解をします。幾ら積み立てるつもりでいるんですか。

◎議長（福原 勤君） 民生部長。

◎民生部長（佐藤澄雄君） 平成2年度から繰り越した平成3年度の財政調整基金積立額は9,800万円の予定でございます。

◎議長（福原 勤君） 神田守隆君。

◎21番（神田守隆君） それはわかっています。何で9,800万円やるんですか。1,000万だっていいでしょう。

◎議長（福原 勤君） 民生部長。

◎民生部長（佐藤澄雄君） これは国の指導でございます。5%以上を積み立てるという指示に基づきまして、あすの国保の安定のために積み立てているものでございます。

◎議長（福原 勤君） 神田守隆君。

◎21番（神田守隆君） そうすると、もうやりませんか。

◎議長（福原 勤君） 民生部長。

◎民生部長（佐藤澄雄君） 財政調整基金につきましては、国の指導が3カ年の保険給付費の5%以上ということになっております。ことしはそういうことで5.85%になるわけでございます。ただ、この5.85%の数字というのは県下の基金の、他市の平均といいますか、28市の中でやっているところ、基金を持っているところと持っていないところもありますけれども、平均して2年度につきまして6.76というような平均的な基金を持っているわけでございます。そういうことで、5.8%の数字館山市においては現在のところ妥当だと思っております。

◎議長（福原 勤君） 神田守隆君。

◎21番（神田守隆君） すると、まだまだ積み立てがされるかもしれない

な、今の御答弁ですと。もう5%も超えているわけですが、県下の平均の水準までいきたいということが恐らく言いたかったんじゃないかと思えますけども、すると6.76ですからまだまだ大変です。今国保が大変高い、この原点はそこなんです。どうですか、国保税が大変な重税感があって住民がなかなか納め切れない。5ポイントも他の税目に比べますと低くなっている、収納率。これはなぜだと思いますか。私は高くてもう払い切れない、いいかげんにしてくれという住民の気持ちがここに示されておると思うんですけども、市はどういうふうにお考えになっていますか。

◎議長（福原 勤君） 民生部長。

◎民生部長（佐藤澄雄君） 国保税の収納率がどういうわけで低いかということでございます。ただ、市長の答弁にもありましたとおり、この国保税の構造的な問題がこの収納率一つをとっても問題になるかというふうに考えております。高齢者、また産業構造等の変革によりまして国保の加入者の階層が変わってきております。低所得者等が他の被用者保険と比べまして大変高うございます。そういうような構造的な問題があるからやはり収納率が低いというふうな感じを持っております。

◎議長（福原 勤君） 神田守隆君。

◎21番（神田守隆君） 端的に言って構造的なというようなお話で、わかったようでわかんないんですけども、要するに余りお金がなくても取られるんですよ、国保税は。所得に対して負担感が非常に強いんです。ここに問題があるわけです。高いんです。それが一番の問題なんです。ですから、この国保税について現実に黒字になったり、また過大な見積もりをしていたり、こういう点があればこれは減税をしなければならない。むしろ減税をするということがこの国保の制度を維持していく上で今緊急な必要のある問題じゃないか。この高いという問題についてどう答えるか、ここに行政当局の考えなきゃならない問題があるんです。みんな今まで議論してきたのは、一般会計から助成をして安くしようじゃないかという議論をさんざんやってきたんです。ところが、こんなにお金がありましたというんじゃ、今までやってきた討論は何か、議論は何かということになってしまうわけです。もうこれは

減税してください。市長さんいかがですか。

◎議長（福原 勤君） 庄司市長。

◎市長（庄司 厚君） 貴重な御意見を参考にしながら十分検討させていただきます。

◎議長（福原 勤君） 神田守隆君。

◎21番（神田守隆君） 次に移ります。マンションの建設の問題でございますけれども、県条例とあわせて云々というお話がございましたけれども、市がどのような内容でこの指導要綱の内容を考えておられるのか。県からガイドライン等も示されておるわけで、なかなかこれができないということで私自身も大変やきもきをしている。もう1年以上にわたる問題かと思っておりますので、どういう時期にどういう内容を今考えておるのか、お聞かせいただきたいと思ひます。

◎議長（福原 勤君） 建設部長。

◎建設部長（伊東 衛君） 時間がないようですから、簡潔に御説明いたします。

県条例と市のリゾートマンション指導要綱との差でございますけれども、大半のものが県条例でカバーされております。そんなことでしなければならないことは、この県条例をクリアすればどこでも建てられるというものがございます。そこで、市は非常に観光的にもどうしても観光資源としてとっておかなければならない自然公園地域——西岬、神戸方面でございますけれども、ここについて自然公園法の適用を受けます高さ13メートルを同じようにひとつ高さ制限をしていこうということでございます。

それから、いつになるかということでございますけれども、これについては指導要綱があります。リゾートマンションの指導要綱、それからまち並み景観の指導要綱と二、三の指導要綱を整合しなければならないと思っております。そんなことで今作業をしておりますけれども、いずれにしろ指導はもう既にその要綱でしております——その案でしておりますので、県は7月の1日からということでございますので、なるべく早いうちにその指導要綱をつくってまいりたいと思ひます。

以上です。

◎議長（福原 勤君） 神田守隆君。

◎21番（神田守隆君） なるべく早くということで、一刻も早くとか今までこの議会で言われた言葉はたくさん表現があったんですけども、本当に早くでしょうね。

それで、文化ホールの問題ですけども、先ほど来随分質問もされて、市長もなかなかこの問題について頑張っていたいただけるかなという感じを持っているんですけども、この問題は安房の館山の一市長という立場という問題もあるかと思いますが、しかし住民の運動の中でも周辺の町村の代表の方々も住民の方も参加されておるということで、館山だけの運動というのではちょっと幅がいささか狭くなるのではないかな。近隣の町村長の方の御協力を依頼しながら運動を進めていくということが必要になるのではないかな、またそれが大きな力にもなるのではないかなと思うんですけども、こういう点についてどのようにお考えですか。

◎議長（福原 勤君） 市長公室長。

◎市長公室長（佐藤輝雄君） その問題につきましては、一応働きかけを行いながら近隣市町村を初め各種団体の御協力をいただきながら運動を進めていく所存でございます。

◎議長（福原 勤君） 神田守隆君。

◎21番（神田守隆君） よく道路問題では関係市町村連絡会とか協議会とかつくったりやるわけですけども、こういう問題についても連絡協議会——鴨川さんはちょっと難しいでしょうけども、関係の町村長さんとかいうものを、協議会等をつくって連携を図っていく必要があらうかと思います。その辺はいかがですか。

◎議長（福原 勤君） 市長公室長。

◎市長公室長（佐藤輝雄君） その点につきましては今後検討していきたいと思っております。

◎議長（福原 勤君） 神田守隆君。

◎21番（神田守隆君） この文化ホールの問題については今回議会にも請

願が出されておるわけですから、議会としても積極的に議決をしていくというような問題も当然あるかと思いますが、さらに積極的にこの問題について調査をしていく、その設置について積極的に働きかけていくというようなことで、常任委員会なり、あるいは特別委員会の設置なり、こうした問題について検討をしていくことが必要なんではないのかなというふうに思うんですが、議長さんにおいてはこうした問題を皆さんに議会としてこの問題どう進めていくかということについて常任委員会における調査、あるいは特別委員会の設置、こうした問題を協議をいただきたいと思うんです。いかがですか。そういうことで御協議をお願いいたします。

それで、次に幼稚園の30人学級の方に移りますけれども、平成5年度という具体的な年限を示してお話をいたしました。いかがですか。

◎議長（福原 勤君） 教育長。

◎教育長（福原 修君） 30人学級の問題につきましては、将来の推定人口の問題でございまして、どのくらい館山市の幼稚園に入園して下さるかどうか、そういうことを今までの経験にかんがみて検討を加えているわけですが、通常に考えますと平成4年度ですと30人学級にした場合は8学級の増ということが現在推定されておりますので、平成4年度には実施は無理であろう、このように考えております。平成5年度はしからばどうかということにつきましては、また踏み切る方向にはおりますけれども、具体的に平成5年度でやるべきかどうかということにつきましてはまだ検討を加えておりません。また来年度になりましたら具体的な数字も出てくるだろうと思いますので、その際また検討を加えたい、このように考えております。

以上です。

◎議長（福原 勤君） 神田守隆君。

◎21番（神田守隆君） そんな難しい話じゃなくて、人数の推定は明らかに今の2歳児 — この平成3年4月1日2歳児、1歳児、ゼロ歳児というのは明らかにもう2割近く減るわけです。これが今の水準よりも減るわけですから、今出生数をどうふやすかということが大変議論はされています。だから、5年か6年先はまだこれから生まれる子供だからわからないという面は

ありますけども、しかし現実にかなりやはりここへ来て出生数が落ち込んできている。この子供たちが5年度から幼稚園に入ることになるということは事実でありますから、平成5年度の4歳児からこれはもう当然検討をしなければならない、実施の検討を具体的に検討しなければならないと思うんですが、いかがでしょうか。

◎議長（福原 勤君） 教育長。

◎教育長（福原 修君） 慎重に考えなきゃならない問題だろうと私は考えております。でありますので、来年度になりましてまた新しい資料に基づいて検討を加えたい、このように考えます。

◎議長（福原 勤君） 以上で21番議員神田守隆君の質問を終わります。

暫時休憩いたします。

午後2時22分 休憩

午後2時43分 再開

◎議長（福原 勤君） 休憩前に引き続き会議を開きます。

次、8番議員永井龍平君。御登壇願います。

（8番議員永井龍平君登壇）

◎8番（永井龍平君） 私の今定例会の質問は、少産高齢化社会の対応と市民の健康を守り、また行政面による市民サービスの充実を図り、高齢者のための生きがい対策をドッキングさせた総合福祉ＩＣカードシステムの導入の提案をいたすものでございます。

先ほど神田議員より国保税の減税等の問題が論議されましたが、この提案、このシステムにもその国保税の減税あるいは国保税の軽減策ともなる大きく寄与する施策だと考えるものでございます。確実に、また急速にやってくる高齢化時代、我が国社会は世界に類例のない急速な高齢化が進み、戦後における長寿化と出生率の低下によって、これから21世紀初頭にかけて65歳以上の老年人口の比率が急上昇することが確実になっております。1年生きるとだれでも1歳年を重ねるということは当然の摂理でもあります。人生は生まれてからこの世を去るまでマラソンのようだと言われますが、本当にそうだと思います。高齢化社会とは生をうけた大部分の人が長い生命を全うし、加

えて出生してくる子供たちの数がその前と比較して低下してしまいつつある社会であります。要するに、多産短命の社会から少産高齢化社会への移行であります。どうしてそのような変化が起こるのか。確実に言えることは、社会の産業化に伴い生活のさまざまな面において豊かになり、生をうけた1人1人のことを大切にしていくというシステムと考え方が定着してきたからだと思います。そこで、大事になってくる問題は一見個人的なことのようには思えますが、高齢化社会に伴って発生してくる社会的な広がりを持つ課題であること、個々の問題でありながら社会を構成する家族の内容の変化ということで、社会構成全体に影響を与える社会問題として対処しなければならないと私は考えるわけであります。従来の人生50年、子供は3人、老親は同居して世話をするといった伝統的な家族の仕組みではこの新しい状況の前にさまざまな無理と不都合が生じ、実際にこのメカニズムが機能的に働かないばかりか、意識と現実の間で家族が、老人本人が、そして社会が崩壊してしまうと言っても過言ではありません。産業経済の発展によって得られた長命社会を私たち1人1人が安心と安定、そして幸福感を実感できる長寿社会にしていくことこそ、21世紀の本格的高齢化社会を目前にして市民と行政が真剣になっていかねばならない重要課題と思うわけでございます。

さて、この総合福祉カードについてであります。兵庫県五色町で平成元年3月より保健医療カードシステムとして導入をし、この1年余り特別に開発されたICカードを住民約500人に配布し保健医療業務を実施してきましたが、5月からは対象者を65歳以上の老人を中心に約1,700人に拡大実施しており、本年1月にカード保持者を対象にしたアンケート調査では、検査の重複が避けられる、画面での説明が受けられる、持っていると安心をする、投薬の重複が避けられるなど幾つかの利点が挙げられました。また、医療機関関係の間では、生涯にわたる診療、検診情報を本人に保有してもらうことで適切な医療を効率的に行うことが可能になったとすこぶる好評であります。

この五色町のカードシステムをさらに総合的に充実、拡大させ、市民サービスに開発されたものが、島根県出雲市人口1万2,000人であり、高齢化社会の切り札とも言える総合福祉カードシステムなのであります。このカード

システムは、医療、年金、住民情報等のデータを名刺大のIC、集積回路に一括して入力、緊急時の医療はもとより平素の検診や健康管理、行政サービスに至る広い範囲のニーズに応えようと、まずは65歳以上のお年寄り 7,200人の希望者に本年4月から実施をいたしました。本年4月よりのスタート時のサービス内容の要旨としては、まず第1に行政窓口サービスでございます。これは住民票、戸籍、年金はがき、現況届、印鑑証明及び所得証明、資産証明について、福祉カードを窓口へ提出して必要なものを口頭で申し込めば、申請書を書かなくとももらうことができます。本人の場合は印鑑も不要となります。第2に、診療支援サービスがあります。カードに入力された健康診断のデータ3年分を必要に応じて市内のどこの医療機関のドクターでも見るできるので、初診の患者等で過去の健康状態を知りたいときなどにカードのデータが役立つほか、薬の副作用やアレルギー等も確認できるので問診時の参考にもなります。第3に、健康管理サービスでございます。各地区の健康相談のときに3年分の健康診断データを一目で見ることができるので、より密度の高い保健婦活動ができます。また、自らの健康診断のデータをカードで持ち歩くことで健康に対する関心を高め健康診断の受診率の向上も期待できるほか、カードのバックアップデータを利用して各種の統計資料の作成が容易にできるメリットがございます。第4に、緊急支援サービスであります。血液型、副作用歴、アレルギー等の情報を救急車の中でポケットブルリーダーにより確認し、搬送中素早く無線で救急病院へ連絡できるほか、カードにより身元確認や連絡先を直ちに確認できます。

以上、サービス内容を簡単に説明をいたしましたが、問題はプライバシーの保護についてのセキュリティー機能についてであります。まずカードは顔写真入りとなるので本人かどうかの判断ができます。市民のカード、医師等のセキュリティーカードの双方を確認して初めてカードの情報が読めることとなります。また、医師、保健婦、救急隊員、窓口職員等、それぞれの立場で読み込める情報の範囲を制限しております。また、カード内の情報は暗号化してありますから、セキュリティーカードと専用の端末機の双方を使わない限り情報を読むことはできません。また、装置構成では市内の各医療機

関 — 出雲市の場合⁶⁶医療機関は実施しておりますが — や行政窓口、証明窓口、健康相談室にはＩＣカードリーダーライターを備えた専用の端末装置を設置して、救急車には救急情報のみ読めるポケットブルリーダーを設置して、消防署には市外での事故等に対応するため救急情報のみを記憶した端末装置を設置いたします。また、カードのバックアップデータを記憶したカードの印刷発行機を福祉カードセンターに設置し、カードの追加発行、再発行については市直営で対応しております。

以上、出雲市の総合福祉カードシステムの概要を説明いたしましたが、御理解いただけましたでしょうか — ちょっとわかりませんね。この５月には厚生省の諮問機関でございます公衆衛生審議会において第３次老人保健事業について１９９９年までの８カ年計画として、大腸がん検診の提案とともにこれからの研究テーマとして保健、医療、福祉のデータを総合的に利用し、さらに個人のデータを過去から整理して保存、活用するためのＩＣカード等を使った情報システムの研究を提言しております。市長さんは施政方針の中で、温かい心の通う健康福祉都市づくりとして市民１人１人が心も体もともに健康であることが市民生活の基本であるとして平成元年に長寿健康都市宣言をいたしまして、その趣旨である自分の健康は自分でつくり自分で守るを基本理念として、市民の健康を守るための施策を総合的に推進すると約束しておられます。そのためには、まず生活習慣に起因する成人病が増加していることから、それらを未然に予防するための健康教育、健康相談を各地域で実施し、また健康を維持するためには疾病の早期発見、早期治療ということが大変重要であり、各種検診の実施とあわせ受診者の増大を図るとともに、新たに大腸がん検診や血液検査による糖尿病検診を実施するとしております。私はこれらの健康福祉都市づくりの円滑な推進の基本となる施策がこの総合福祉カードシステムであり、大きな役割を果たしてくれるものと確信するものであります。どうか市長さんにおかれましては、この４つのサービスを組み込んだ総合福祉カードシステムの導入の検討をしていただきたいと思います。市長さんのお考えをお聞かせいただきたいと思います。

よろしく願いいたします。

◎議長（福原 勤君） 庄司市長。

（市長庄司 厚君登壇）

◎市長（庄司 厚君） ただいまの永井議員の御質問にお答えいたします。

少産高齢化社会への対応と市民の健康を守り、また行政面による市民サービスの充実を図るための総合福祉ＩＣカードシステムの導入をしたらどうか、ということで、新しい時代を指向しての出雲市の事例をいろいろ御説明いただきまして、勉強させていただきました。お礼申し上げます。

館山市の行政窓口サービスについてでございますけれども、当市では昭和46年にＯＡ化を導入、推進してまいりました。現在、住民票、その他ほとんどの証明書類をコンピューターで作成しているところでございます。出雲市の事例を参考にされましての御提案でございましたが、御提案につきましては今後事務改善の検討に際しましての参考にさせていただきたいと考えます。

次に、保健医療関係で申し上げますと、現在実施しております総合検診のデータにつきましては市及び安房医師会病院に管理、保存されておりました、検診時の総合判断の比較資料や健康相談及び医師の診断資料として活用されておりますが、行政サービスにつながる、より効果的な活用は将来の課題と考えております。国におきましても、厚生大臣の諮問機関であります公衆衛生審議会で、平成4年度からの第3次老人保健事業の方向として保健医療データの統合的な利用、さらに個人データのＩＣカード化等による情報システムの研究等が提言されております。この推進に当たりましては、医師会、医療機関の御理解と御協力は不可欠なものでございますし、かつ広域的な面での対応を含めまして関連する諸機関との調整等、環境づくり、基盤づくりを進めてまいりたいと考えております。

以上でございます。

◎議長（福原 勤君） 永井龍平君。

◎8番（永井龍平君） 再質問させていただきますが、本論の中でちょっと間違えまして、出雲市の人口を「1万」と言ったようですけれども、「約8万2,000」でございます。訂正いたします。

御答弁の中で今後事務改善の――窓口サービスの中でございますけれども、

事務改善の検討に際しまして参考にさせていただきたいとありますが、どういふところが参考になるのか、またならないのか、そのところがちょっと不明瞭でございますので、御説明お願いいたします。

◎議長（福原 勤君） 民生部長。

◎民生部長（佐藤澄雄君） どういふところが参考になるかならないかという問題でございますが、この点につきましては検討をしてからでないといふとあれだと思いますが、窓口の行政サービスにつきましては社会的な動向、これがあるわけでございます。こういう問題は、御提案のとおり全国的に普及されてくるんじゃないかというふうなことも考えられます。そういうことでこれから参考にしていきたいということでございます。

◎議長（福原 勤君） 永井龍平君。

◎8番（永井龍平君） これからこういうようなシステムが——先駆的に出雲市でやっているわけで、まだ2カ月でございますけれども、そういう趨勢になってくると思います。また、現在はカード文化の時代、こう言われておりますけれども、クレジットカードはこれまで社会的に地位のあると申しますか、地位を象徴するものとして考えられてきましたが、現在もうほとんど大衆化されております。ある私立大学でも学生証を兼ねたカードを発行して使用しておるところもありますし、テレホンカードにしても、オレンジカード、キャッシングカード等のプリペイドカードのほかに、レコード店などの会員証カードとあらゆるカードが今使用されております。カード1枚あれば外国どこでも行って用が足せるような時代でございます。また、小学生も持っております。現在はもうアメリカ並みのキャッシュレス時代に入っております。このカード文化は時代のもう趨勢であると私は考えます。でも、このクレジットカードも節度を持って利用しないとかえってマイナスの面もありますが、しかしながらこのような福祉のために、市民サービスのためにもこういうICカードをつくってやっていったら市民の方も大変喜ぶんじゃないか、このように思います。

ちょっとお伺いいたしますが、昭和46年にオフィス・オートメーションシステム——OA化をされた、全国的にも早い時期に導入されたようござい

ますけれども、そのときの経緯、そしてそのときの市民の評価、こういったものはいかがでございましたでしょうか、お伺いいたします。

◎議長（福原 勤君） 総務部長。

◎総務部長（二通英雄君） ちょっと今承知しておりませんので……。

◎8番（永井龍平君） ちょっと申しわけございません。もう一度お願いします。

◎総務部長（二通英雄君） その当時のことは今資料として持っていないので、承知しておりません。

◎議長（福原 勤君） 永井龍平君。

◎8番（永井龍平君） 私考えるには、窓口サービスにしても、健康管理、医療サービスにしても、非常にこのシステムは現代のニューメディアを活用した最新鋭の画期的な事業だな、このように考えるわけで、その当時のそういうOA化等を一応参考にしてこういったものも比較検討してみたいなという意味で聞いてみたんでございますけれども、出雲市で市民課サービスの手続がもうスピード化されまして、しかも簡略化されまして手続が大変楽になった、こういう好評のようでございます。現代人、特にお年寄りの方は——我々もそうでございますけれども、活字離れとなってきております。所定の用紙に文字等書くことが苦手であります。そして、そのために事務職員の手を煩わせる。そのために事務処理等に時間がかかる。市民の応対、待ち時間等の苦情を耳にいたしますが、その辺の対応は市民の方は十分満足していると考えられますかどうか、いかがでございますか。

◎議長（福原 勤君） 民生部長。

◎民生部長（佐藤澄雄君） ただいまの市民課の窓口の対応がどうかということでございますけれども、御承知のとおり3月、4月非常に混雑するときがあるわけでございますけれども、現在市民課の中で窓口係でなくてほかの係も随時応援をしており、そういう体制を整えてございます。そういうことで、今は待ち時間が大幅に短縮されたんじゃないか、市民の方々の御理解をいただいているんじゃないかというふうに考えております。

◎議長（福原 勤君） 永井龍平君。

◎8番（永井龍平君） わかりました。窓口サービスについてはこれで打ち切ります。

次に、健康医療サービスについてでありますけれども、長寿健康都市宣言の趣旨であります自分の健康は自分でつくって守っていく——第1次予防施策として病気になりにくい体力づくりのための食生活、運動、規則正しい生活の健康教育や健康相談を実施、第2予防として早期発見、早期治療のための各種検診を現在行っており、つい先日終わったようでございますけれども、この総合検診、1日ミニ人間ドックですか、本年度の検診率の成果等はいかがでありましたでしょうか。

◎議長（福原 勤君） 民生部長。

◎民生部長（佐藤澄雄君） 本年度の総合検診でございますけれども、さきほど終わりました、保健課または医師会の協力を得まして大変だったんでございますが、ことしは3日間延長しまして27日、それと1会場ふやしました。海員学校をふやしまして行ったわけでございます。ことしはさらに戸別通知を出しましてやったわけですが、大体6,300人ぐらいが受診したということで、平成2年度は5,539人——これは実績でございますが、約15%ぐらい、800人ばかりの人が受けてくれたというふうになっております。

以上です。

◎議長（福原 勤君） 永井龍平君。

◎8番（永井龍平君） もう大変な受診率で結構なことと思います。最近新聞等をにぎわしておりますけれども、働き盛りの壮年期の突然死、過労死、急病死と言われている死亡が大変問題になってきておりますけれども、8人に1人が突然死——急病で死亡した働き盛りの5人に3人は1週間前までは健康な状態であった、そしてその7割が高血圧等の既往症を持っておる、そして急病死の6割が健康であったとしております。ある専門家は、健康は自己管理が必要と指摘しております。その病名を挙げますと、成人病と言われるクモ膜下出血——いわゆる脳疾患が34.6、次いで心不全が31.5%、心筋梗塞等が20%、ほか5.9%なようでございます。また、最近子供の肥満、運動不足、またストレス等による小児成人病もふえてきており、将来が大変心配

されます。また、よく見かけますけれども、健康で丈夫な人で医者にも行かない、検診もしないで自身の健康状態を知らない、そして余り管理しない人がおります。昔の人は一病息災という言葉をよく使ったものでありますが、自身の健康を十分認識している人こそさまざまな面で元気で長生きをしているようでございます。このような成人病予防等のためにもこの健康管理サービスの施策が大変な威力を発揮すると考えられますが、この点いかがお考えでございますか。

◎議長（福原 勤君） 民生部長。

◎民生部長（佐藤澄雄君） 確かにこういうシステムをとった場合、いわゆる健康問題、そういうものをより身近な自分自身の問題として意識しますし、また自己管理の強化とか、各種の検診、そういうものへの参加も考えられます。御質問、御指摘のような効果が期待できるものというふうに考えています。

◎議長（福原 勤君） 永井龍平君。

◎8番（永井龍平君） このシステムの導入を本当に考えていただきたい。

最後に要望でございますが、当市には総合病院ありません。市民はこの実現を強く希望しておるわけでございます。そのためにはこの保健医療サービスは重要な意義を持つものと考えます。答弁にも推進に当たりましては医師会、医療機関の理解と協力が必要だ、広域的な面での対応も含めて関連する諸機関と調整して環境づくりを進めていく、このようなお答えをいただきましたが、この施策につきましては出雲市においても実施して2カ月余りで難問がまだまだあると予想されます。しかし、すばらしいモデルケースとしてその推移を十分また見守ってまいりたいと思います。しかしながら、行政窓口サービスにつきましては市独自の事業として実施ができるものと考えられますので、このサービスにつきましては十分検討されていただきましてこの施策の実現を要望するものでございます。

以上、質問終わります。ありがとうございました。

◎議長（福原 勤君） 以上で8番議員永井龍平君の質問を終わります。

延 会 午後3時16分

◎議長（福原 勤君） お諮りいたします。

本日の会議はこれにて延会いたしたいと思います。これに御異議ありませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

◎議長（福原 勤君） 御異議なしと認めます。よって、本日はこれにて延会することに決しました。

次会は明6月18日午前10時開会とし、その議事は本日に引き続き通告による行政一般質問を行います。

この際、申し上げます。一般議案、補正予算に対する質疑通告の締め切りは6月18日正午でありますので、申し添えます。

◎本日の会議に付した事件

1 行政一般通告質問